

明日の暮らし、ささえあう

CO・OP 共済



# 地域ささえあい助成

— 生協と他団体が協働する活動を応援します —

2025 年度 活動報告集



日本コープ共済生活協同組合連合会



● ご挨拶 .....	5
● 2025年度助成のまとめ .....	6
● 地域ささえあい助成とは .....	7
● 事務局からのお知らせ .....	15
● 地域ささえあい助成 2025年度フレンドリーサポートについて .....	49
● 「CO・OP共済 地域ささえあい助成 学習交流会 2025」開催報告 .....	50
● 特集「生協のくらしの困りごとヒント集」のご案内 .....	51

### 協働たかめる助成

「協働たかめる助成」を受けた活動の名称（白文字）と、協働してその活動に取り組む生協・団体の名称（黒文字）を一覧にて掲載します。数字は各活動報告の掲載ページです。

#### 公営住宅を活用した居住支援とコミュニティ再生 9

生活協同組合コープこうべ第1地区本部  
認定NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズ  
ネット・こうべ  
一般社団法人officeひと房の葡萄

#### フードバンク事業を軸とした「くらしと子育て 応援」の協働のまちづくり 13

生活協同組合しまね  
島根大学  
持続可能な地域社会構築のための地域政策に  
関する研究プロジェクト  
特定非営利活動法人フードバンクしまねあったか元気便

#### 現地視察報告

#### 公営住宅を活用した居住支援とコミュニティ再生 11

## 協働はじめる助成

「協働はじめる助成」を受けた活動の名称（白文字）と、協働してその活動に取り組む生協・団体の名称（黒文字）を一覧にて掲載します。数字は各活動報告の掲載ページです。

### 食品ロス削減と食支援を目的としたフードバンク活動 17

フードバンク彩鳥  
生活協同組合コープおおいた

### わくわくドキドキ!マナーアドベンチャー!! 22

生活協同組合ひろしま  
YOLO

### 高齢者の孤独・孤立防止のためにミドル・シニアができること～二つの取り組み～ 18

特定非営利活動法人キャリアネットワーク北陸  
とやま生活協同組合

### 八重山諸島での環境・教育活動～島人をつなぎ、八重山の価値を次世代へ～ 23

東大地域活性機構Diligent  
生活協同組合コープおきなわ

### 多胎家庭の交流会・相談支援 19

プッシュ&リンク  
生活協同組合コープおきなわ

### 地域の様々な世代が交流してささえあいたすけあう拠点づくり 24

湘南生活クラブ生活協同組合  
W.Coパチャママ

### 「もしもにつながるいつもの活動」地域の居場所をむすぶ災害拠点化プロジェクト 20

生活協同組合コープかがわ  
たかまつ子ども食堂ネットワーク

### 現地視察報告 地域の様々な世代が交流してささえあいたすけあう拠点づくり 25

### 「～神戸発～障がいの有無、男女、年齢関係なくおしゃれでカッコいいサルエルパンツ」のブランド立ち上げ、販売 21

生活協同組合コープこうべ第5地区本部  
M.Y.S Kobe(メイクユースマイル神戸)



### 協働ひろめる助成

「協働ひろめる助成」を受けた活動の名称（白文字）と、協働してその活動に取り組む生協・団体の名称（黒文字）を一覧にて掲載します。数字は各活動報告の掲載ページです。

#### みんなの笑顔をつくる居場所づくり 27

一般社団法人チョイふる  
東都生活協同組合

#### 子ども第三の居場所事業「ふきのとう・こどもクラブ」活動 33

生活協同組合コープさっぽろ  
公益財団法人ふきのとう文庫

#### 六甲ウィメンズハウスにおけるコミュニティカフェおよびフードパントリー活動 28

生活協同組合コープこうべ第3地区本部  
公益財団法人神戸学生青年センター

#### 健康習慣で地域づくり 34

生活協同組合コープこうべ第5地区本部  
一般社団法人しんしんスポーツ・KOBE

#### 「本」でつながるまちづくり—子どもの安心を広げるプロジェクト 29

NPO法人子どもサポートステーション・たねとしずく  
生活協同組合コープこうべ第2地区本部

#### だーこキッチン/居場所づくり、子ども食堂、学習支援 35

生活協同組合コープみえ  
一般社団法人だーこ  
社会福祉法人伊賀市社会福祉協議会

#### 未来を育む！食と自然体験プログラム 30

北海道生活協同組合連合会  
株式会社FUJI  
特定非営利活動法人ひとり親と子どもふぉーらむ北海道

#### LFA Japanとコープこうべが織りなす食物アレルギーに優しいまちづくり 36

一般社団法人LFA Japan  
生活協同組合コープこうべ第2地区本部

#### ならから広がるもったいないの輪～フードバンク活動～ 31

もったいないNARA  
市民生活協同組合ならコープ  
奈良県生活協同組合連合会

#### 誰もが集える居場所作り 富山型共生・共助コミュニティ ありみね 37

とやま生活協同組合  
特定非営利活動法人ありみね

#### 地域共生社会づくりへの協働の活動 32

わかやま市民生活協同組合  
社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会

#### 地域住民の買い物支援、高齢者見守りおよび生きがい創出などの地域支援関連活動 38

生活協同組合コープあきた  
NPO法人南外さいかい市

ホームタウンみなみ 39

生活クラブ生活協同組合神奈川  
認定特定非営利活動法人さくらんぼ  
横浜みなみ生活クラブ生活協同組合

出前のびすく(地域における乳幼児親子の居場所づくり) 40

特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク  
みやぎ生活協同組合

つながりインターンシップ@協同～若者が協同の働き方を学び、どう生きるかを考える～ 41

一般社団法人くらしサポート・ウィズ  
社会的連帯経済推進フォーラム  
パルシステム生活協同組合連合会

共食を通じたケアと協働のプロジェクト2025 42

生活協同組合コープぎふ  
社会福祉法人いびき福祉会

コミュニティ食堂と配食を通じた支え合い事業 43

一般社団法人Teco  
生活協同組合パルシステム福島  
いわき市平第31区

なんでも相談会・フードパントリー 44

北毛保健生活協同組合  
渋川北群馬民主商工会

生きづらさを抱えた子ども・若者・女性のためのアフターケア支援および更生保護支援 45

特定非営利活動法人DV対策センター  
東都生活協同組合

子育て応援プロジェクト 46

岩手県学校生活協同組合  
岩手県教職員組合

体験農園や収穫体験の活動をとおして、消費者が農業を学び、農業の担い手育成につなげる活動 47

わかやま市民生活協同組合  
紀ノ川農業協同組合

現地視察報告

体験農園や収穫体験の活動をとおして、消費者が農業を学び、農業の担い手育成につなげる活動 48



## 2025年度を振り返って・・・

世界に目を向けると、戦争や紛争は依然として収束する気配を見せず、私たちの日常生活にもその影響が迫っていると感じられます。

物価高は長期化し、くらしの負担は大きくなっています。こうした環境のもと、生活困難や孤立を抱える人、支援を必要とする人は常態化しているように感じます。また私たちの活動に大きな影響がある米価は一時的な問題にとどまらず、継続する課題となりました。その影響は、本助成を活用するフードバンクなどにも重くのしかかり、運営体制や支援規模の見直しが求められる場面も生まれています。

こうした時代だからこそ、「人與人」「組織と組織」がつながり、互いを理解し認め合いながら、協働して課題に取り組むことが求められています。生協はこれまで、人々のくらしを見つめ、生活に根ざした声を聴き、共感を束ねながら、時代とともに変化する課題に向きあってきました。その生協が地域の多様な団体と協働することを後押しする本助成制度には、大きな可能性があります。生協が持つ「配送」「店舗」「広報」「リサイクル」など様々な機能や特徴に着目され、生協との協働を望まれる声も増えています。助成金を活用される生協・団体の皆さまと成果を共有し、ともに学びあいながら、この制度が「誰一人取り残さない地域づくり」に貢献していくことを願っています。

## 全国でさまざまな活動が展開されています・・・

日本コープ共済生活協同組合連合会では、社会貢献活動として2012年度から「CO・OP共済 地域ささえあい助成」を開始し、2026年度には15年目を迎えます。2025年度は「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」「協働たかめる助成」の3つの区分で審査をおこない、全国32件の活動（「協働はじめる助成」8件、「協働ひろめる助成」22件、「協働たかめる助成」2件）に対し、総額31,317,671円の助成を決定しました。これらの活動は各地で展開され、生協と地域団体が協働する中で、多様な「協働」の形が生まれ、実践されています。

協働することで、個々では気づかなかった課題が浮き彫りとなり、また個々では解決できなかった問題が解決された事例もみられました。生協と地域の様々な団体による協働は、今後も本助成制度の中で広げていきたい取り組みです。

## 2026年度に向けて・・・

2026年度の活動に向けて2025年10月～11月に3つの助成区分で募集し、2026年2月に審査をおこないました。2026年度は助成対象に災害復興や災害へ平時から備えるための活動をあらためて明示したことにより、復興が長引く石川県での活動が増えました。また大阪府や滋賀県の団体、富山県の団体など各地で災害に対する活動がみられました。本報告集が発行される2026年6月にはすでに助成、活動が始まっています。これまで以上に、学びあい深まり、地域課題の発見や解決のための活動が広がることを期待しています。この報告集が、多くの皆さまにとって、お互いの活動を知り、学びあい、より良い活動につなげるための一助になれば幸いです。



2026年6月吉日

2025年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成 審査委員会 委員長 斉藤 弥生  
(大阪大学大学院人間科学研究科 教授、放送大学 客員教授)

※「協働はじめる助成」では生協と地域の団体とが協働をはじめることを、「協働ひろめる助成」ではその協働関係を生協が主体性を発揮しながら広げること・深めることを後押ししていきます。そして、「協働たかめる助成」では、活動・協働の運営を安定させて協働関係を持続的なものとし、この協働関係をベースとして地域の多様な課題に向きあうことをサポートしていきます。

# 地域ささえあい助成 2025年度助成のまとめ

地域ささえあい助成は2022年度に制度を改定し、「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」という2つの協働区分での助成を開始しました。そして、2024年度の助成からは「協働たかめる助成」の募集を開始しました。このページでは、2025年度助成の応募と助成の状況について概要を報告します。

## 1. 応募と助成の件数

2025年度は35件から応募いただき、32件に対して総額31,317,671円を助成しました。助成件数の内訳は、協働はじめる助成が8件、協働ひろめる助成が22件、協働たかめる助成が2件でした（表1）。

表1 応募と助成の件数と総額（件数単位：件、金額単位：千円）

年度	2024年度				2025年度			
	はじめる	ひろめる	たかめる	合計	はじめる	ひろめる	たかめる	合計
応募件数	13件	26件	2件	41件	12件	23件	2件 <sup>※1</sup>	35件
助成件数	9件	21件	2件	32件	8件	22件	2件 <sup>※1</sup>	32件 <sup>※2</sup>
助成総額	3,530	16,321	10,000	29,851	3,626	17,691	10,000	31,317

※1 2025年度は「協働たかめる助成」の新規応募はなく、2件とも2024年度からの継続助成です。

※2 助成決定後に活動が中止となった1件が含まれています。

## 2. 助成団体の地域分布

助成団体（第一団体）の所在地の分布は表2のとおりです。  
19都道府県から応募いただきました。

表2 助成団体の地域分布

地域	助成件数	助成件数都道府県内訳
北海道・東北	6	北海道×2、秋田、岩手、宮城、福島
関東・甲信越	6	東京×2、神奈川×3、群馬
東海・北陸	4	富山×2、岐阜、三重
近畿	10	和歌山×2、奈良、兵庫×7
中国・四国	3	広島、島根、香川
九州・沖縄	3	大分、沖縄×2
合計	32	

## 3. 助成した活動の 카테고리別件数

助成先団体の取り組む活動の 카테고리別の件数は表3のとおりです（各活動を地域ささえあい助成事務局にて カテゴリに分類しました）。

表3 助成した活動の 카테고리別件数

カテゴリー	件数
A 居場所	5
B 貧困対策・困窮者支援	0
C フードバンク・フードパントリー	6
D 子育て支援	9
E 健康づくり	1
F 障がい者支援	2
G 災害支援・防災	1
H 買い物支援	1
I DV対策	1
J 過疎支援	2
K その他	4
合計	32



# 地域ささえあい助成

— 生協と生協以外の団体の協働を応援します —

CO・OP共済では、人と人、組織と組織のつながりのなかで、時にはささえ、時にはささえられながら、誰もが安心してくらせる地域社会の実現に向けて、生協と生協以外の団体が協働で取り組む活動を支援しています。

2022年度から開始した「協働はじめる助成」では、生協と団体が初めて協働する活動を対象に助成をおこなっています。また、「協働ひろめる助成」では、さらに踏み込んだ協働関係を構築し、活動を広げる取り組みを支援しています。

さらに、2025年度には広がった協働関係を持続的なものにしなが、地域の多様な課題解決に向けて取り組む「協働たかめる助成」が2年目を迎え、より進んだ協働を通じて地域社会への貢献を目指しています。

## 助成対象となる費用

助成を受ける活動に直接かかる費用（事業費）、または助成を受ける活動について協議する場（協議体）の運営にかかる費用（管理費）

## 選考方法

外部有識者およびコープ共済連、日本生協連関係者で構成する審査委員会にて審議のうえ、決定します。

## 3つの協働区分のちがい（「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」「協働たかめる助成」）

協働の状況等に応じて、いずれの協働区分に応募するかご検討ください。

協働区分	協働はじめる助成	協働ひろめる助成	協働たかめる助成
協働の状況	生協と団体が初めて協働して活動をこれから始める場合、もしくは協働した活動の開始から1年未満の場合	生協と団体の間にすでに1年以上協働して活動した実績があり、その協働をさらに広げて活動する場合	生協と団体の間にすでに1年以上協働して活動した実績があること、助成開始時点で協議体が立ち上げられていること、協議体を構成する団体が3団体以上であること
窓口団体	生協または生協以外の団体	生協を推奨	生協のみ (生協以外の団体からは応募不可)
助成期間	1年間	1年間	2年間または3年間（応募時に選択）
助成継続期間	一連の活動に対して1回（1年間）	一連の活動に対して最大3年間（「協働はじめる助成」の助成期間を含めます）	3年間まで（「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」の助成期間は含めません）
助成金上限額	1つの活動について50万円	1つの活動について100万円	1つの活動について、年間500万円× 最長3年間=最大1,500万円
助成金総額上限	両区分合計で年間2,500万円程度		年間2,000万円程度

## ● 助成対象となる活動

地域共生社会の実現に向け、生協と生協以外の団体が協働して取り組む、以下のいずれかの内容の実践的な活動です。

- ① 社会課題や地域課題の解決に向けた、地域における活動
- ② 暮らしに身近な課題やまだ広く知られていない課題の解決に向けた、地域における活動
- ③ 人と人や組織と組織をつなげ、取り組みを発展させていくための活動

## ● 応募要件

以下のAとBのいずれも満たす活動が応募できます。詳しくは応募要項でご確認ください。

- A 地域をささえつづけるために協議体をもつことで運営の安定をはかっていること
- B 地域の多様な課題の解決に向けてさらなる取り組みを展開しようとしていること

※各要件に関する具体的な確認項目をすべて満たす場合にのみ応募いただけます。





# 活動報告

## 協働たかめる助成

助成件数	2件
助成金総額	10,000,000円

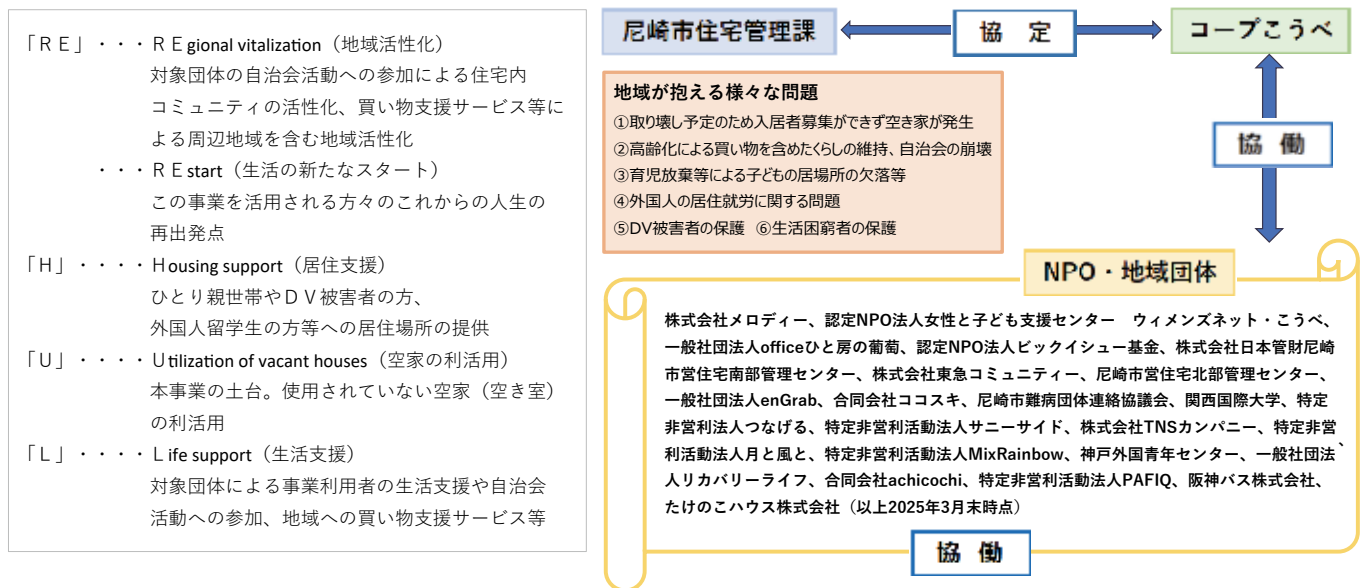
# 公営住宅を活用した居住支援とコミュニティ再生

## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

リーフルネットワークは、尼崎市役所とコープこうべの協定の下で運営され、2026年2月現在、25の支援団体で構成されている。協働を主目的としない事業も含めた全体の事業規模は120戸に及び、地域における居住支援の基盤として着実に広がりを見せている。2025年度は61件の問い合わせに対応し、当初14戸を予定していた改修工事は、関係団体との連携や柔軟な調整により最終的に18戸の居住支援につながった。計画を上回る成果の背景には、支援体制の充実と現場対応力の向上がある。さらに、看護や医療を教える大学教員との連携がすすみ、精神的に不安定なDV被害者に対しても、日常的かつ継続的な心のケアが可能となった。リーフルは、住まいの提供にとどまらず、自立に向けた「立て直しの期間」を支えることを目的としている。また、食料や家電など生活必需品の提供もおこなっている。最大の特徴は「自治会の再生」を目的に据えている点であり、居住支援を通じた地域コミュニティの再構築を強みとして、今後も継続的な支援をおこなっていく。

## 協議体の組織図

### あまがさき住環境支援事業「REHUL」ネットワーク



## 他団体と協働することで発見したこと

兵庫県住宅政策課からの依頼で居住支援法人向けセミナーの講師を務めたことを契機に、県高齢政策課および住宅管理課から県営住宅での買い物支援やつどい場づくりの相談を受け、兵庫県との連携が深まった。また、複数の居住支援法人からリーフルへの問い合わせが寄せられ、他市にも公営住宅の利活用を見直す動きが広がっている。こうした流れを受け、西宮市では2026年度から居住支援法人ネットワーク連絡会の事務局運営を受託することとなった。分野の異なる団体が連携することで、大きな課題にも立ち向かえる力が生まれることを実感している。

## 活動において生協が担った具体的な役割

コープこうべは、居住支援の全体コーディネート役として、問い合わせ受付窓口の運営、新規加入団体の選定、団地自治会が円滑に活動できるよう支援をおこなっている。あわせて、生活困窮世帯への食料提供、DV被害者等への家電・生活必需品の提供、さらに支援活動の隙間に生じる入居者の困りごとへの対応（病院への付き添い、ゴミ出しルールの周知、生活音〈騒音〉に関するクレーム対応等）をおこなっている。また、公営住宅の利活用に関する好事例として、各地方自治体や地域諸団体からの講演依頼にも対応している。

- ・生活協同組合コープこうべ第1地区本部
- ・認定NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ
- ・一般社団法人officeひと房の葡萄

[https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/030/115/040330-01-03.pdf](https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/030/115/040330-01-03.pdf)  
<https://hitofusa-budou.com/>    <https://wn-kobe.or.jp/>



### 組合員・地域住民の主体的な参加を促す工夫

昨年から、西長洲団地集会所で毎週土曜日にベトナム母語教室が開催されている。参加者は住宅の空き地を活用して家庭菜園を始め、収穫した野菜を使ったベトナム料理を夏祭りや中秋節などで住民に振る舞い、交流を深めている。

また、管理栄養士・調理師免許を持つベトナム人の母親を講師に、9月にはベトナムの独立記念日に合わせて料理会を開催し、料理を通じてベトナムの歴史や文化への理解を深めた。

稲葉荘団地の校区である大島小学校からは、子ども食堂開設の相談があり、稲葉荘集会所を活用した地域住民主体の子ども食堂が検討されている。

市営住宅の自治会の上位組織であるまちづくり協議会では担い手不足が課題となっているが、季節行事への参加要請を通じて、リーフル利用者が運営の手伝いにも関わっている。

### 活動の成果と助成金により実現できたこと

改修費用の助成により、2年間で28室の居住支援を実現した。あわせて人件費助成により早期の人員配置が可能となり、事務局運営の円滑化につながった。

ひと房の葡萄、ウィメンズネットこうべにおいても、リーフルが収益事業として機能し、安定した組織運営を支えている。

リーフル事業による居室数の増加は、清掃活動の充実や共益費増額、あわせてリーフル事業者と既存住民とのコミュニケーションの活発化につながり、自治会支援の強化にも寄与している。これらの成果が共有され、他の市営住宅からも問い合わせが寄せられるようになっている。

### 社会への情報発信

- ・公益財団法人地域創造基金さなぶりから基調講演の依頼を受け、「若年女性の孤立防止とくらしを支えるために必要なこと」をテーマとしたフォーラムにおいて、2年半の活動からの提言と公営住宅の活用について報告した。
- ・ビッグイシューの記念講演会において、リーフル事業を報告する機会を得た。生協が行政と民間支援団体をつなぐ新たなコーディネートモデルとして注目される契機となっている。
- ・生協総合研究所が厚生労働省の令和7年度社会福祉推進事業として採択された「地域共生社会の実現を目指した単身世帯等を対象とした生協の関わり方に関する調査研究事業」について、情報提供の依頼を受けている。
- ・パルシステムが主体となる居住支援研究会から講師依頼を受け、くらしサポートウィズ、生活クラブ神奈川 (NAGOMI) との情報交流をおこなった。これにより、生協間の連携・連帯の広がりが期待される。

### 課題と今後の展望

近年、40～50代のシングル女性が困窮により居住支援を必要とする相談が増えている。シングルマザー期は制度的支援がある一方、子育て終了後は制度の対象外となり、パートや派遣など不安定な就労形態に置かれるケースが多い。さらに、親の介護や自身の病気が重なることで、生活保護基準を下回るリスクも高まる。

こうした課題に対し、シングル女性の貧困を研究する大学研究者と連携し、早急な実態調査と支援策の検討が必要であると考えている。今後、リーフル事業は一般募集住宅への展開をすすめ、新たな公営住宅活用の先進モデルを目指す。

# 現地視察報告

## 公営住宅を活用した居住支援とコミュニティ再生

地域ささえあい助成事務局では、活動内容を深く知ることや事務局の学びの機会として、活動現場を訪問させていただいています。今回、REHUL（リーフル）の活動で「生活協同組合コープこうべ」が協定を結んでいる「尼崎市役所」様と、リーフルへの参画団体の「ビッグイシュー基金」（2026年4月1日をもって「認定NPO法人ビッグイシュー日本」に変更）様、「株式会社メロディ」様を訪問させていただきました。

### ◎ 現地視察先と主目的

#### 『尼崎市役所・都市整備局住宅部』

行政の職員の方より、市内や住宅を取り巻く状況、当事業への評価などを伺いました。

#### 『生活協同組合コープこうべ第一地区本部』

ビッグイシュー基金担当者にお越しいただき活動の問題や改善点などについて懇談しました。

#### 『株式会社メロディ』

協働団体として住宅利用者の抱える問題や経過、外国籍の方を交えて懇談しました。

### ◎ 訪問してわかったことや伺った内容

#### 1 『尼崎市役所・都市整備局住宅部』

##### コープこうべが核となっているからできる住宅提供の枠組みと、住宅活用の広がり

リーフルは、コープこうべを中心に行政・NPOが協働し、居住支援をおこなっています。背景には、空き家増加による自治会活動の衰退や共益費負担増などの課題がありました。リーフルが開始してからは、①共益費負担の抑制 ②要配慮者の自立支援 ③地域コミュニティの活性化 ④市政課題・地域課題の解決（空き家活用による家賃収入、相談体制の改善）などの効果が確認されているようです。

事業のスキームとして尼崎市とコープこうべが包括連携協定を締結しリーフルを形成、リーフルに要配慮者支援団体が加入することで市場より安価に住居を提供できる仕組みです。今後は対象住宅の拡大（建替え可能物件や駅遠物件）や県内全域への展開が予定されています。訪問した時点で協働する団体は20を超え、貸出しされる住居は100戸を超える件数となっています。

#### 2 『コープこうべ第一地区本部でのビッグイシュー担当者との懇談』

##### ストリートペーパー販売を通じた生活困窮者への自立支援と、安価な住居の必要性

ビッグイシュー基金は、①ホームレスや生活困窮者の自立を応援する情報提供・交流、住宅確保や就業支援 ②貧困問題解決に向けたネットワークづくりと政策提言 ③市民参加の促進を活動の柱にしてストリートペーパー販売による収入確保や住まいづくりなど、さまざまなプログラムを展開されています。

リーフルの中では唯一「主に男性を支援する」団体となっています。コープこうべでは生活困窮者にむけた食品提供などを通じて協働しています。懇談の中で「ビッグイシュー」というストリートペーパー（週刊雑誌）を通じた住居利用者（雑誌の販売員）の実態や、そこに発生する問題とその対応について伺いました。住居を借りられる期間は期限が設けられ、廉価ながら家賃の中から、退所する際の自立費用が積み立てられる仕組みなど、「自立」させるための工夫がわかりました。

#### 3 『株式会社メロディ』（高齢者への福祉事業者）

##### 帰国できない外国籍の若者への職業支援と、人手不足の介護支援者のマッチング事例

尼崎市で高齢者福祉事業（居宅介護・通所介護・訪問介護）を展開しています。日本語学校を卒業後に、帰国が困難な状況にある外国人に向けた住居・職業支援をおこなっています。訪問当時には介護職員の約5%が外国籍の方で、介護人材不足に寄与されました。また、地域に多様な文化の発信をするなど異文化交流にも努めています。懇談では外国籍で介護の業務をされる方々より、日本の生活での好きなおことや困ることなど、覚えてたの日本語で懸命に説明いただきました。国籍で住居の賃貸契約が難しいことから、狭いワンルームなどへ大勢で暮らしたことなど、切実な経験を伺いました。



ビッグイシュー基金との懇談



株式会社メロディの介護施設

- ・生活協同組合コープこうべ第1地区本部
- ・認定NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ
- ・一般社団法人officeひと房の葡萄

[https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/030/115/040330-01-03.pdf](https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/030/115/040330-01-03.pdf)  
<https://hitofusa-budou.com/>    <https://wn-kobe.or.jp/>



## 【リーフルから見る外国籍の方々の暮らしの課題】

### ◎ 活動を通じてわかった「外国籍の方との共生のありかた」の1つの形

日本において外国人の在留人数は2025年末時点で日本の総人口の3.3%と言われ、その割合は年々増加しています。株式会社メロディで伺った外国籍の労働者をはじめ、日々の暮らしで外国籍の方の存在は大きくなっていくと感じます。その中には国を跨ぐ特有の問題を抱えている人も少なくないことがわかりました。今回は問題を抱えた人たちがリーフルと出会ったことで、個々の問題だけでなく、地域社会に与える影響について考える機会となりました。

今回リーフルの関係者に2つの「アンケート」を実施させていただきました。

#### 1. リーフルの活用住宅（新規募集停止団地）に外国籍の方が来たことについての感想

（先住の日本人居住者は高齢化がすすんでおり古い団地にはエレベーターなどの施設がありません。）

- ・若い外国人居住者が増えたことにより、自治会の運営を手伝ってくれるようになった。
- ・自治会費の集金など高齢者には階段を昇り降りしながら各戸を回るのはきついのですが、若い方が代わりに集金してくれることにより楽になった。
- ・出ていく一方だった団地に新しい人が住むことにより自治会費の安定した収入ができ、自治会における活動範囲が広がった。
- ・共有スペースの草むしりなどに積極的に参加してもらえ、地域環境の整備ができる。
- ・語学教室や料理教室（今のところどちらもベトナム人による）が開かれるなど言葉・文化の壁を超えることにも活躍。

#### 2. 入居した外国籍の方から「生活の困りごと」「日本のコミュニティ」への感想

（ご協力いただいた回答者の国籍：中国、台湾、アメリカ、ネパール、インド、ミャンマー、ベトナム 約30名程度からの回答です。）

生活での困りごとは？ …… 一番大きな「ことばの壁」、リーフルにより住居への悩みは少ない

日本のコミュニティについて？ … 自国と同じという感想

生活の困りごととしては「ことばの壁」が一番となりました。一方、日本のコミュニティへの感想は、「自分の国と同じ」ように感じている方が以外と多く、リーフルならではの「住まいの提供」に終わらない、自治会活動の存在などもこのような回答につながったのではないかと推察されます。またリーフルの中で様々なNPO等の市民団体が活動しており、困ったときに支援してくれる人や調整役となる人がいることが特徴です。



### ◎ まとめ

初年度は、地域ささえあい助成「たかめる助成」の活動として、一般社団法人officeひと房の葡萄様、認定NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ様を見学させていただき、女性と子どもに関する活動の様子を伺いました。今回は、生活困窮の男性と外国籍の方々への居住支援に関わる活動についてお話を伺いました。

地域に根差す生協の活動として、暮らしに身近な課題やまだ広く知られていない課題に気づき、社会問題に取り組む活動への期待はさらに高まっている、という感想をもちました。



# フードバンク事業を軸とした「くらしと子育て応援」の協働のまちづくり

## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

経済的に困難を抱える「就学援助世帯」の子どもたちとその家族に対し、食品の提供や学習支援を通して「元気」と「安心」を届け、孤立を防ぎながら自立を応援する活動をおこなっている。「『食卓応援』から『くらしと子育て応援』まで」を掲げ、子どもたちには学習や体験の場を提供し、母子家庭のおかあさんには、子どもと向き合う時間や自分自身のための時間を確保できる支援をおこなっている。こうした活動を通じて、「地域の子どもは地域のみんで育てる」という考えのもと、支え合いのある地域社会の実現を目指している。

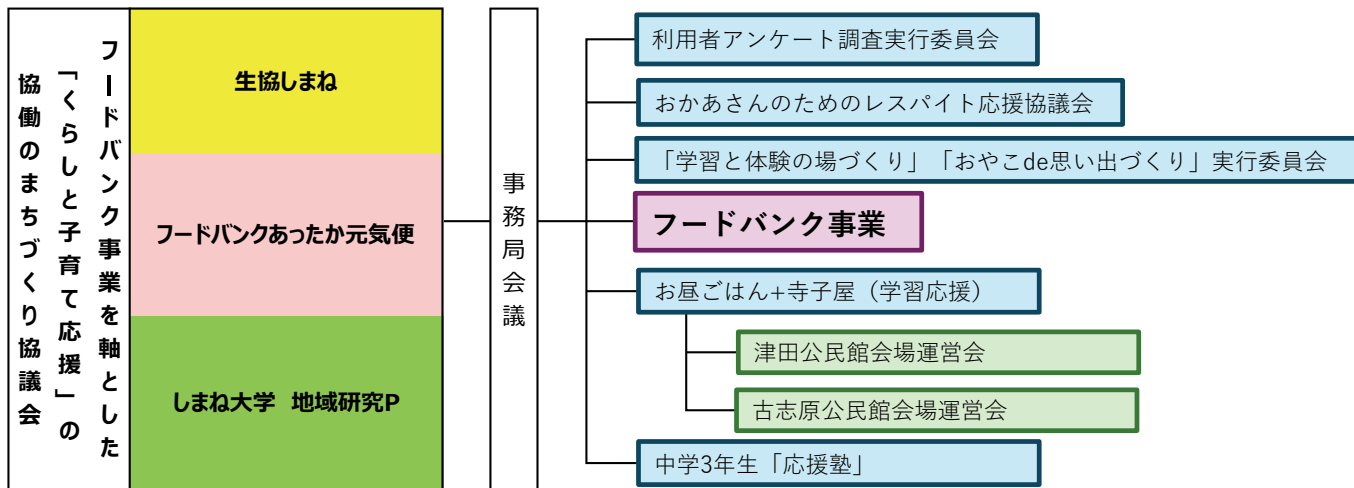
2025年度は、前年度実績に5校を加え、松江市内の小・中学校29校へと利用対象校が拡大した。「物価高をやっつけろ！緊急食卓応援」も継続して取り組み、年5回の食卓応援を実施した。のべ2,864世帯、約1万人の家族に対し、約33トンの食品を届けることができ、年間のボランティア参加はのべ約1,825人にのぼった。

また、島根大学・大阪大学の研究者と連携した利用者アンケート調査を実施し、「アンケート調査学習報告会」(3月23日)を開催した。他のフードバンク団体の調査報告も共有する場となり、今後の行政への働きかけに向けた「協働」の基盤づくりにつながっている。

調査結果からは、長期化する物価高騰の影響により、特にひとり親世帯で副職などによる収入確保が前回調査比で倍増しており、「時間の貧困」が深刻化していることが明らかとなった。

こうした状況を受け、2026年度は「おやこde思い出づくり企画」として、観劇やスポーツ観戦などの機会を協働により創出する準備をすすめている。対象は松江市内の児童・生徒の約9割まで拡大し、2027年度には全児童・生徒を対象とする取り組みを目指す。

## 協議体の組織図



## 他団体と協働することで発見したこと

「おかあさんの似顔絵パンづくり」や「ぐるっと松江 堀川めぐり」など、「おやこde思い出づくり」の機会と場の提供が広がった。参加した母親からは、「仕事が忙しく、子どもに十分な時間を取れなかったが、喜ぶ姿を見ることができてよかった」といった声が寄せられ、とりわけひとり親の母親にとってはレスパイト支援にもつながっている。

また、これらの企画を協働で実施することで、就学援助世帯や子どもの貧困に対する理解が深まるとともに、フードバンクへの理解促進にもつながっている。

## 活動において生協が担った具体的な役割

OCR注文書を活用し、2回にわたり組合員へ寄付金を呼びかけた結果、約670人の組合員から67万円の寄付が寄せられた。また、「中学卒業を祝う集い」では、虹の会の会員への呼びかけにより、6社から協賛を得ることができた。

さらに、物価高騰により利用世帯のくらし向きが一層厳しさを増す中、「緊急食卓応援」に取り組み、フードバンクしまねからの要請を受けて当生協の取引業者に協力を呼びかけた。その結果、2回にわたり冷凍牛肉計1.6トンを寄贈することができた。

- ・生活協同組合しまね
- ・島根大学 持続可能な地域社会構築のための地域政策に関する研究プロジェクト
- ・特定非営利活動法人フードバンクしまねあつたか元気便

<https://foodbankshimane.com>



### 組合員・地域住民の主体的な参加を促す工夫

年間のべ約2,000人が参加するボランティアを「層」として、また「個」としても緩やかにつながることを目的に、「あつたか元気便応援団」を立ち上げた。情報発信の充実をはかりつつ、会則や代表は設けず、組織化せず一人ひとりと直接つながる仕組みとしている。

これまで十分に伝えきれていなかった活動の舞台裏なども共有することで、参加者自身の理解を深めるとともに、インフルエンサーとしての役割発揮を期待している。こうした取り組みを通じて、「参加」から「参画」へとつながる可能性を広げていきたい。

### 活動の成果と助成金により実現できたこと

活動の量的な広がりとして、対象校は24校から29校へと拡大し、のべ利用世帯数は前年比128%、のべ家族数、提供食品総量ともに123%となった。一方で、2025年度当初から続く米の品薄や価格高騰、食品価格の上昇により、利用者増加とフードドライブの伸び悩みが重なり、購入費用の増大など事業運営上の困難も生じた。

こうした状況の中で、助成金は事業の基盤を支えるだけでなく、取り組みへの励ましとなり、次の展望を生み出す大きな力となった。

### 社会への情報発信

「あつたか元気便だより」は年4回、1回あたり4,000部を発行した。Facebookでは年間90回の情報発信をおこない、地元マスコミを中心に新聞9回、テレビ4回の報道につながった。また、大阪大学・島根大学の研究者と協働し利用者アンケート調査を実施し、11月には中間報告として山陰中央新報社に大きく取り上げられた。3月には、他フードバンクの調査結果とあわせた学習報告会を開催した。さらに、調査結果を踏まえ、就学援助制度の具体的な改善に向けた行政への提言をまとめ、新年度には行政担当部署や議員との懇談、共同記者会見等を通じて地域への情報発信をおこなう計画である。

### 課題と今後の展望

事業を取り巻く環境は、物価高騰の影響により大きく変化している。こうした中でも協働の輪を広げ、2027年度には当初目標として掲げた松江市内すべての児童・生徒を対象とした取り組みへと拡大できるよう準備をすすめている。

今後は、「食卓からくらし・子育て応援まで」の取り組みとして、子どもには学習や体験の場づくり、母親にはレスパイト支援、家族には「おやこde思い出づくり」の機会を、地域団体や企業との協働により多様に展開していく。こうした取り組みを通じて、利用者からも地域からも「頼りにされる」フードバンクを目指す。

# 地域ささえあい助成事務局からのお知らせ

## 「地域ささえあい助成」ホームページのご紹介

コープ共済 オフィシャルホームページ内に地域ささえあい助成のページを開設しています。  
このページでは、地域ささえあい助成の概要のご紹介のほか、本報告集やこれまでの助成実績を掲載しています。  
さらに、2027年度助成の募集情報や応募書類も順次掲載していきます。



◎ <https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/>



## 「CO・OP共済 社会貢献の取り組み 登録制ページ」のご紹介

助成金活用団体のみ閲覧可能な登録制ページです。助成に関するご案内や各種セミナー情報など、さまざまな情報を発信しています。

## 「地域ささえあい助成」のロゴとバナーのご紹介

助成金活用団体の皆さまには活動時に地域ささえあい助成のロゴやバナーをご活用いただいています。





# 活動報告

## 協働はじめる助成

助成件数 8件

助成金総額 3,626,334円

# 食品ロス削減と食支援を 目的としたフードバンク活動

- ・ フードバンク彩鳥
- ・ 生活協同組合コープおおいた

<https://sites.google.com/view/foodbankirodori>



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

物価高騰や生活環境の変化により、十分な食事を確保することが難しい世帯が増加する一方、まだ食べられる食品が廃棄されているという課題がある。こうした状況を受け、食品ロス削減と食支援の両立を目的に活動をおこなっている。

亀川地域に拠点を設け、食品の回収・検品・保管をおこなうフードバンク活動を展開するとともに、月2回のフードパントリーを開催し、学生や地域住民、子育て世帯へ食品を提供している。また、企業や関係団体と連携し、食品の安定確保にも取り組んでいる。活動を通して、必要な人に継続的に食品を届けるとともに、地域のつながりを生み出す場づくりも目指している。

さらに、食品の品質や安全性を確保する検品体制の整備に注力するとともに、学生主体の運営を通じて、若者が社会課題に主体的に関わる機会を創出し、地域と連携した持続可能な支援の仕組みづくりをすすめている。



## 他団体と協働することで発見したこと

コープおおいたとの協働を通じて、食支援は単なる物資提供にとどまらず、活動への理解を広げる機会づくりと組み合わせることで支援の広がりが生まれることを実感した。大学へ生協組合員にツアーの一環として来訪いただき、活動紹介や意見交換をおこなう中で、フードドライブによって集められた食品を寄付いただくなど、新たな支援の形が生まれた。

また、コープおおいたから食品提供を受けている子ども食堂の見学を通じて、現場ごとに求められる食品や支援のあり方が異なることを学んだ。今後も、フードドライブなどを通じて協力関係を一層強化していきたい。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
4月	11日/第10回APUフードパントリー@立命館アジア太平洋大学	127名
	12日/第12回亀川フードパントリー@フードバンク倉庫	
5月	10日/第13回亀川フードパントリー@亀川中央町2区公民館	132名
	24日/第14回亀川フードパントリー@亀川中央町2区公民館	
6月	28日/第15回亀川フードパントリー@関の江新町公民館	31名
7月	12日/第16回亀川フードパントリー@亀川浜田町公民館	80名
	26日/第17回亀川フードパントリー@亀川中央町2区公民館	
10月	7日/第11回APUフードパントリー@立命館アジア太平洋大学	106名
	18日/第18回亀川フードパントリー@亀川中央町2区公民館	
11月	2日/子どもチャリティーフェス@別府公園	112名
	9日/第19回亀川フードパントリー@亀川浜田町公民館	
	19日/第20回亀川フードパントリー@内籠公民館	
12月	13日/第21回亀川フードパントリー@亀川中央町2区公民館	57名
1月	10日/第22回亀川フードパントリー@亀川中央町2区公民館	70名
2月	11日/第23回亀川フードパントリー@亀川中央町2区公民館	58名
3月	22日/亀川マルシェ(フードパントリー)@別府市公設市場	100名



## 活動の成果と助成金により実現できたこと

助成金は主に食料費および備品購入費に活用した。食料費としては、子どもが喜ぶお菓子や鍋つゆなど、家庭で実際に役立つ食品を購入し、寄付食品だけでは補えないニーズに対応することができた。

また、折りたたみコンテナや台車の整備により、食品の保管・管理体制が向上し、効率的かつ安全な取り扱いが可能となった。これにより、安定したパントリー運営が実現し、継続的な食品提供体制の強化や、利用者の満足度および支援の質の向上につながった。

# 高齢者の孤独・孤立防止のためにミドル・シニアができること～二つの取り組み～

- ・ 特定非営利活動法人キャリアネットワーク北陸
- ・ とやま生活協同組合

<https://career-net.org/>  
[https://www.toyama.coop/kumikatsu\\_report/  
coop/kumikatsu\\_report/](https://www.toyama.coop/kumikatsu_report/coop/kumikatsu_report/)



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

主旨は、地域の高齢者・独居高齢者に、生きがいや居場所、安心を提供することを目的としたミドル・シニア世代のボランティア活動への意識啓発です。人の役に立つためには「学ぶ」ことから始めようと、知る・学ぶ・手を差し伸べることを組み込んだ講座を実践しました。

具体的には、まずミドル・シニア世代の最大の関心事である健康・生きがい、身近なIT機器の活用方法を学ぶ機会を提供し、学んだことを身近な高齢者へ伝え、人の役に立つ喜びを互いに享受できることを目指した講座です。

背景には、地方社会でも共助の地域力が弱まり、高齢者の孤独・孤立が増大している現状があります。本事業を通じて、これまでボランティア活動に積極的でなかった人たちが、自分の役に立ったことを他者にも伝える喜びを実感することで、地域貢献活動へ広がっていくことを目標としています。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
6月	「健康生きがい講座」(高岡会場)	27名
7月	「健康生きがい講座」(魚津会場)	25名
	「健康生きがい講座」(富山会場)	40名
8月	「スマホの使いかた講座(基礎編)」(高岡会場)	42名
	「スマホの使いかた講座(応用編)」(高岡会場)	43名
11月	「健康生きがい講座パートⅡ」(富山会場)	33名
11月	「スマホの使いかた講座(基礎編)」(富山会場)	34名
12月	「スマホの使いかた講座(応用編)」(富山会場)	38名



## 他団体と協働することで発見したこと

第一団体と第二団体それぞれの強みを活かし、とやま生活協同組合が主に広報を担当し、キャリアネットワーク北陸が主に講座運営を担当するという大まかな分担ですすめました。

実際の講座では、双方のスタッフや役員が協働し、バランスの取れたきめ細かい運営ができました。

また、参画団体からの協力も受け、特にスマホ講座では、学生ボランティア団体による学生サポーターが受講者の大きな励みとなり、さらに学びたいという意欲の向上につながったと思います。

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

端的に言えば、本講座の実現は助成金によるものです。とやま生協の組合員への広報については、講座対象層だけでも7万人を超えるため、全講座を周知することは難しい状況でした。しかし、公共施設の会場費や講師経費は、すべて助成額内に収めることができました。また、学生や担当者の交通費の一部についても、助成金による支援を受けることができました。

これにより、キャリアネットワーク北陸は、ボランティア団体としての財政的負担を軽減し、活動の活発化を促進することができました。

# 多胎家庭の交流会・相談支援

- ・プッシュ&リンク
- ・生活協同組合コープおきなわ

<https://www.instagram.com/push.and.link/>  
<https://www.instagram.com/futago252525/>



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

沖縄県北部地域において、多胎家庭を中心とした子育て支援を開始してから3年が経過した。多胎家庭交流会や「ママお疲れ様カフェ(おやこ食堂)」による居場所づくり、多胎プレファミリー教室、「知ることから始める多胎家庭支援」講座などをおこない、2025年度は活動の飛躍の年となった。

多胎家庭は育児負担が大きい一方、支援情報が届いても、母親に精神的な余裕がなく、社会資源を利用するための手続きや外出が難しいという課題がある。そこで、各家庭の状況に応じた相談支援をおこない、交流会への参加などについても個別にサポートしてきた。

今後は、多胎家庭以外の家庭にも対象を広げ、母親の疲弊予防やSOSの早期発見につながる支援を強化していく。過疎化がすすむ沖縄県北部地域においても、「どこに住んでいても安心して子育てできる環境」を目指し、地域の子育て支援の専門家と連携した取り組みを今後も展開していく。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
4月	twins talk (骨盤ケア)	1名
5月	多胎プレファミリー教室	12名
6月	twins talk (アイシングクッキー教室)	8名
8月	twins talk (ベビーマッサージ教室)	3名
11月	ママお疲れ様カフェ(おやこ食堂)	27組89名
12月	twins talk (アイシングクッキー教室)	10名
1月	沼フリマ	40名
2月	多胎ピアサポーター養成講座「知ることから始める多胎家庭支援」	25名
2月	twins talk (ベビーマッサージ教室)	7名



## 他団体と協働することで発見したこと

多胎家庭支援講座の開催にあたり、コープおきなわには、細やかな連絡体制とネットワークを活かした迅速な対応により、資料の印刷や店舗でのポスター掲示など、多面的な支援をいただいた。また、北部ブロック協議会において「プッシュ&リンク」の活動を紹介する機会を得たことで、関係団体や地域とのつながりがさらに広がった。

過疎化がすすむ沖縄県北部地域では、子育て支援体制は依然として十分とは言えない状況にあるが、多胎家庭や子育て家庭からは感謝の声も多く寄せられている。地域に根ざした広いネットワークと丁寧な連携体制を有するコープおきなわは、地域に欠かせない重要な社会資源であると、あらためて認識した。

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

助成を受けたことで、これまで一人で担うことが多かった活動が、地域の専門職と連携した取り組みへと広がった。専門性の高い交流会を実施することができ、参加者の満足度も高く、支援の質の向上を実感している。

特に「多胎プレファミリー教室」は、沖縄県内で初めての取り組みとして実施することができ、多くの参加希望者が集まるなど、高いニーズが確認された。さらに、日本多胎支援協会の専門家を招いた講演会を通じて地域への発信がすすみ、行政からの信頼も高まっている。

本助成は、活動の発展と継続的な協働につながる大きな成果となった。

# 「もしもにつながるいつもの活動」 地域の居場所をむすぶ災害拠点化 プロジェクト

- ・生活協同組合コープかがわ
- ・たかまつ子ども食堂ネットワーク

<https://ameblo.jp/takamatsu-kodomosyokudo/entry-12950386292.html>



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

本事業は、地域で多様な取り組みの拠点となり得る子ども食堂と、安心してらせる地域づくりを目指す生協が、「食」×「居場所」×「防災」をテーマに交流会と防災体験会をおこなったものです。近年、災害への備えの重要性が高まる一方で、防災を「特別なもの」と感じ、日常生活との距離を感じる人が多いことが課題となっています。そこで本事業では、防災スイーツづくりや簡易トイレ体験など、誰もが参加しやすい敷居の低いプログラムを通して、防災を日常の延長として捉え、楽しみながら学べる機会を創出しました。

また、子ども食堂関係者や生協職員、防災に関心のある地域の方々が見える関係を築き、互いの活動を知ることで地域のネットワークが広がりました。参加者からは、学んだことを身近な場で広めていきたいという声も寄せられ、今後も継続的な取り組みにつながり、地域全体の防災意識向上や連携強化への寄与が期待されます。



## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
4月	参加者の募集	
5月	5/27 上期プログラム(1回目)交流会・体験活動の内容検討会をコープ宮で開催	参加団体 7団体 参加者 19名
6月	6/9 上期プログラム(2回目)交流会・体験活動の内容検討会をコープ太田で開催	参加団体 7団体 参加者 16名
7月	7/2 上期プログラム(3回目)交流会・体験活動の内容検討会をここね屋島西町で開催	参加団体 5団体 参加者 15名
7月	7/16 上期プログラム(4回目)交流会・体験活動の内容検討会をコープ扇町で開催	参加団体 4団体 参加者 13名
10月	10/29 下期プログラム(1回目)防災スイーツ調理・試食会をコープ宮で開催	参加団体 8団体 参加者 22名
11月	11/19 下期プログラム(2回目)多世代交流の場を学ぶ講演、簡易トイレ体験、ホットイート体験をコープ太田で開催	参加団体 7団体 参加者 27名
12月	12/8 下期プログラム(3回目)避難時の視覚聴覚ハンディ者のサポート体験、浸水時の避難体験、パケツリレー体験、簡易防災食体験をここね屋島西町で開催	参加団体 7団体 参加者 14名
12月	12/15 下期プログラム(4回目)防災グッズを使い備えの座談会、お菓子ポーチ作成、キッチンカーについての講演と見学会をコープ扇町で開催	参加団体 8団体 参加者 19名
2月	2/9 全体発表会 各店舗の参加者から、下期プログラムでの体験を発表・情報共有	参加団体 10団体 参加者 21名

## 他団体と協働することで発見したこと

コープかがわの物流や商品供給の力に加え、職員や理事の知識・知恵と、子ども食堂が持つ地域とのつながりや居場所としての機能が重なることで、多様な視点が融合し、日常の延長として無理なく取り組める「やさしい防災」の形が見えてきました。

また、体験を通して互いの強みを知り合い、顔が見える関係が育まれたことは、災害時における支え合いの土台になると実感しました。さらに、NPOとの協働により、地域団体への声かけや講師選定が円滑にすすみ、活動の広がりや内容の充実にもつながりました。

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

本事業では、各会場近隣で活動する関係者同士の交流と体験型防災プログラムをおこない、防災を日常の延長として捉える機会を創出しました。防災食の調理や水害を想定したシミュレーション、被災地支援の経験を持つ講師による講義など、主体的に学びあう実践的な内容となり、参加者同士のつながりも生まれました。

助成金により、食材や消耗品の準備、講師の招聘が可能となり、複数会場で多様性と広がりのある取り組みを展開することができました。さらに、子ども食堂や居場所関係者が地域エリアごとに交流を深めたことで、日頃の活動における支え合いや情報交換の機会にもつながりました。

# 「～神戸発～障がいの有無、男女、年齢関係なくおしゃれでカッコいいサルエルパンツ」のブランド立ち上げ、販売

- ・生活協同組合コープこうべ第5地区本部
- ・M.Y.S Kobe(メイクユースマイル神戸)

<https://mys-kobe.net/kobesmilepants/>



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

車いすユーザーや高齢者から、着脱しやすくおしゃれなボトムが少ないという声が多く寄せられている。対象を限定せず、幅広い人が着用できるデザインを開発することで、障がいの有無にかかわらず家族と一緒におしゃれを楽しむことができ、外出や交流の機会が広がり、生活の質の向上につながると考えている。また、このボトムを身に着けて外出を楽しむことで、神戸の街をよりインクルーシブな街にしたい。

デザインは、メイクユースマイル神戸のメンバーや障がいのある仲間の声をもとにしている。製作は障がい者事業所に依頼し、実際に着用した障がいのある仲間を通じて、このボトムの魅力を発信している。多くの車いすユーザーの声を反映した、着脱しやすくおしゃれなボトムを、障がいの有無に関係なく多くの人に着用してもらいたいと考えている。



## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
1月	第1回関係者ミーティング・・・サンプル作りのための聞き取り	8名
2月	第2回関係者ミーティング・・・サンプル完成、デザイン協議	10名
5月	縫製事業所探し	15名
6月	パターン完成、布探し、ブランドネームとロゴデザイン完成	8名
7月	3種のパンツ完成とブランド、ロゴをファッションショーでお披露目	90名
8月	生地素材打合せ、縫製事業所と打合せ、依頼	9名
9月	モデル打合せ、たまろつと展示会、ミニファッションショー	55名
10月	モデル打合せ、ユニバーサルファッションショーパンツ縫製	5名
11月	KobeSmileファッションショーでパンツプロモーション	700名
12月	モデルから感想回収	50名
1月	縫製事業所と打ち合わせ	5名
2月	西区プレイヤーズ交流会にてミニファッションショー	8名
3月	パターン見直し、サンプル生地の調達	6名

## 他団体と協働することで発見したこと

コープこうべと協働することで、生協とつながりのある人や団体と出会うことができた。互いの得意分野を活かした協働を通じて新たなアイデアが生まれ、取り組みの可能性が広がり、より多くの人に活動を知ってもらうことにつながった。また、神戸市西区以外の地域からも関心や応援の声が寄せられており、活動の広がりを心強く感じている。

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

- ① 多くの車いすユーザーから、衣服に関する困りごとを聞くことができた。
- ② デザインを3種類に絞り込み、より実用性の高いパンツのスタイルを確立することができた。
- ③ ユニバーサルファッションショー開催時には、多くの車いすユーザーが参加・観覧し、このパンツの良さを来場者へ伝えてくれた。
- ④ 多くの車いすユーザーが、このパンツの完成を楽しみにしていることが確認できた。
- ⑤ ユニバーサルファッションショーでは、車いすユーザーに限らず、障がいの有無にかかわらず多様な人に着用してもらい、デザインや機能性の良さを実感してもらうことができた。



# わくわくドキドキ！ マネーアドベンチャー！！

- ・生活協同組合ひろしま
- ・YOLO

[https://www.instagram.com/ikikatalab\\_yolo?igsh=MXRtdmFraHEz3JodA%3D%3D&utm\\_source=qr](https://www.instagram.com/ikikatalab_yolo?igsh=MXRtdmFraHEz3JodA%3D%3D&utm_source=qr)



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

「わくわくドキドキ！マネーアドベンチャー！！」は、8月から全8回に渡りおこなった。参加者は小学校1年生から5年生までの14名である。金銭教育の基礎や働くことを学ぶ講座に加え、実際に稼ぎ、お金を使う体験活動を通して、「お金を稼ぐことは『ありがとう』を交換すること」という気づきが生まれた。

「ぶちええじゃんフェス」への出店を子どもたちと一緒に決め、準備から本番まで主体的に取り組んだ。放課後に準備を重ね、当日はこどもマルシェとして会場を盛り上げた。さまざまな特性をもつ子どもも、積極的に接客に関わる姿が見られた。終了後には「またやりたい」「振り返りの会をしたい」との声があり、追加で振り返りをおこなった。本取り組みは、成功体験を通して自己肯定感を高め、次の挑戦につながるきっかけとなった。



## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
8月	1回 ランチプレートゲーム (LPAの会)、アドベンチャータイム	7名、大人4名
9月	2回 おこづかいちょうゲーム (LPAの会)、アドベンチャータイム	13名、大人7名
11月	3回 どんなお店をつくらうかな?、アドベンチャータイム	11名、大人5名
1月	4回 働くてなんだろう?(ワーカーズコプ高成田さん)、アドベンチャータイム	13名、大人5名
	5回 お店屋さんの準備をしよう!、アドベンチャータイム	8名、大人4名
2月	6回 お店屋さんの準備をしよう!、アドベンチャータイム	14名、大人11名
	予備日(デザイン・作成補助 森川さん) 2/2,2/3,2/6,2/9,2/10	7名、大人5名
	7回 ぶちええじゃんフェス・こどもマルシェ	14名、大人11名
3月	8回 振り返り・お楽しみ会	12名、大人8名



## 他団体と協働することで発見したこと

今回、生活協同組合ひろしま、および安芸高田市甲田人権福祉センターと協働しました。

生協と企画・計画の段階から一緒に協働できたことで、実施時の具体的なイメージを共有しながら計画・実施することができました。必要な教材を分担して作成したほか、講師依頼や関係者をつなぐ役割も担っていただいたことで、全体をととてもスムーズに進行できたと感じています。

安芸高田市甲田人権福祉センターには、主に会場の提供と運営面でのサポートをしていただきました。子どもたちの自己実現に向けて、それぞれの得意分野をお互いに理解し、役割分担できたことは、協働の形として理想的だったと感じています。この取り組みを地域で展開していく道筋が見え、今後が楽しみになりました。

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

助成金により、マルシェ出店に必要な備品の準備や、調査用のPC・タブレットを整備することができました。

子どもたちは、アイデアをすぐに調べたり相談したりしながら、予算づくりや商品・お店の具体化を主体的にすすめることができました。

看板なども自分たちで手作りしたことで、お客さんに思いが伝わりやすくなり、「とても素敵だね」と声をかけてもらったり、ほかのマルシェ出店に誘ってもらったりするなど、地域の方々の交流が生まれました。

保護者からも、子どもたちの姿を見て、これからも一緒にチャレンジしてみたいという前向きな声が聞かれました。

# 八重山諸島での環境・教育活動～島人をつなぎ、八重山の価値を次世代へ～

- ・ 東大地域活性機構Diligent
- ・ 生活協同組合連合会コープおきなわ

<https://sdgs.ut-diligent2.com/activities/>



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

本活動は、東京大学の学生を中心に、地域社会と連携しながら環境保全・地域活性・人材育成を同時に実現することを目的としたプロジェクトである。背景には、都市部の学生が地域課題に直接関わる機会が限られていること、また地域側においても担い手不足が深刻化している現状がある。本活動では、西表島や石垣島を中心に、海洋ごみ問題やマイクロプラスチック問題への対応、地域資源の活用、政策提言などをおこない、学生が現場で学びながら社会課題に取り組む仕組みを構築した。最終的には、学生が主体的に地域課題を発見・解決できる人材へと成長し、その経験を社会へ還元していく循環を生み出すことを目指している。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
9月	第1回 石垣島のビーチクリーニングと海洋ゴミを使用したキーホルダー作りのワークショップ	30名
12月	東京大学での海洋ゴミを使用したキーホルダー作りのワークショップ	20名
3月	第2回 石垣島のビーチクリーニングと海洋ゴミを使用したキーホルダー作りのワークショップ	30名



## 他団体と協働することで発見したこと

地域の自治体や現地団体と協働する中で、外部から見える課題と現場で実際に重要視されている課題には大きな差があることを実感した。特に、環境問題においては単なる清掃活動にとどまらず、観光や産業とのバランス、住民の生活との調和が重要であることを学んだ。また、行政・地域・学生の三者が連携することで、それぞれ単独では実現できない規模や質の活動が可能になることも大きな発見であった。協働は単なる役割分担ではなく、価値観のすり合わせのプロセスであると理解した。

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

助成金により、現地での活動回数の増加や必要な備品の整備が可能となり、活動の質と継続性が大きく向上した。具体的には、海洋ごみ回収活動の実施、回収したプラスチックのアップサイクル企画、地域住民とのワークショップの開催などを実現することができた。また、交通費や活動費の補助により、より多くの学生が参加できる環境が整い、人材育成の側面でも大きな成果があった。助成金は単なる資金支援にとどまらず、活動のスケールと社会的インパクトを拡大する重要な役割を果たした。

# 地域の様々な世代が交流して ささえあいたすけあう拠点づくり

- ・ 湘南生活クラブ生活協同組合
- ・ W.Coパチャmama

## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

コンフォール藤沢をはじめとする地域の多世代の人が集い、つながり、さまざまなコミュニティを創出する拠点を目指し、2025年5月に「コミュニティベース湘南」を設立した。本拠点を活用し、地域のたすけあいの輪を広げ、支え合いながら住みくらしやすいまちづくりを地域の人々とともにすすめることを目的に、たすけあいの実践としてフードパントリーを10月、12月、2月に開催した。

フードパントリー開催日には、レンタルスペースを無料開放日とし、100円カフェや健康チェック、お楽しみ企画(落語など)を実施することで、多様な人が集い交流する場をつくった。

また、4月にワーカーズ・コレクティブ(W.Co)として「パチャmama」を設立し、5月下旬にオープンした。コミュニティカフェとして地域の居場所となることを目指し、来店者が気軽に話せる居心地のよい空間づくりや、子ども連れでも利用しやすい子どもスペースを整備している。あわせて、テイクアウトや近隣への弁当の配達にも取り組んでいる。



## 他団体と協働することで発見したこと

コミュニティベース湘南を拠点としたまちづくりを共にすすめる団体として、「W.Coパチャmama」には企画チラシの設置による周知協力や、フードドライブの受け入れ先としての役割を担ってもらった。カフェ利用を通じて、地域住民の企画参加や協力にもつながっている。

また、レンタルスペースの利用申請や問い合わせ対応などにおいて、「パチャmama」が「コミュニティベース湘南」と地域をつなぐ窓口として機能している。さらに、UR、コミュニティソーシャルワーカー、民生委員・児童委員、自治会との情報交換の場としても発展する可能性が見えてきている。コミュニティベースの利用者が企画終了後にカフェへ立ち寄るケースもあり、相互の活動による相乗効果が生まれている。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
6月	不定期 パチャmamaにて小学生向け かき氷50円販売	1日 10~30名
8月	8/4 湘南生活クラブ フードパントリー実行チームGAYAGAYA結成 10月フードパントリー実施に向けた具体計画の討議	
8月	8/23 コンフォール藤沢自治会夏まつり出店 パチャ:おにぎり・おつまみ販売 生活クラブ:枝豆・笹かまぼこ200円販売、フードパントリー開始に向けた広報	
9月	9/9 フードパントリー開設に向けた意見交換会 参加:藤沢東部地区民生委員、児童委員、藤沢社協CSW、湘南生活クラブ 9/28 藤が岡保育園父母会と共済で秋まつりをコミュニティベースにて開催 子ども60名、大人54名が参加、パチャmama弁当650円×66食販売	9/28 参加114名 弁当66食
9月 10月	湘南生活クラブ組合員、関連団体へ向けたフードパントリー開催案内、 フードドライブ呼びかけ、ボランティアスタッフ募集	
10月	10/22 フードパントリープレ開催&多目的スペース無料開放 100円おにぎり・豚汁、健康チェック&健康相談	来場22名
11月	11/20 コンフォール藤沢団地「ゆるやかに繋がる会」参加 参加:UR、自治会、地域包括、社協、民生委員、パチャmama、生活クラブ	
12月	12/19 第2回フードパントリー&多目的スペース無料開放 101園おにぎり・豚汁、健康チェック	来場23名
12月 1月	月1回 パチャmama子ども無料開放日の開催 今後に向けた試験的取り組み 常連客で元数学教師の方による「掛け算かるた」で遊びながら学ぶ	12月15名 1月25名
2月	2/18 第3回フードパントリー&多目的スペース無料開放 101円カレー、落語、健康チェック	来場21名
3月	3/18~4/8の期間、近隣学童保育「チンチロ児童クラブ」に通っている子どもたちの春休み中のお昼として、日替わり弁当650円にて146食を予約提供。 4月第4回開催に向けた広報、コミュニティベース湘南・パチャmamaを知らせる3つ折りパンフ、名刺カードなど作成。地域へ挨拶周り。	弁当 146食

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

助成金を活用し、食材保管のための冷蔵ケースおよび冷凍庫を購入した。フードパントリーの利用者数は、1回目・2回目はいずれも4人と多くはなかったが、3回目には8人へと徐々に増加している。今後は、より支援を必要とする人に届くよう、広報方法や開催曜日・時間帯の工夫をすすめていきたい。

また、パチャmamaでは、助成金で購入した電動自転車を活用し、配達エリアを広げて弁当の配達をおこなっている。弁当配達の開始により、近隣保育園の保護者や婦人会、サークル等の利用が広がり、地域の学童保育からは長期休暇中の昼食提供の依頼も寄せられるなど、新たなつながりが生まれている。

## 地域の様々な世代が交流して ささえあいたすけあう拠点づくり

### 内 容

#### ◎ 現地視察先

『コミュニティカフェ パチャmama』

『コミュニティベース湘南』

#### ◎ 活動周辺の環境

視察先は、駅から約1.5kmのUR住宅が並ぶ地域で、周囲を他の住宅が囲んでいます。この校区の小学校は児童数552人と全国平均317人を大きく上回り、藤沢市内でも子どもが多い地域です(取材時)。事務局が訪問した際も、前の広場では多くの子どもが遊ぶ姿が見られました。

#### ◎ 訪問してわかったことや伺った内容

はじめにコミュニティカフェ「パチャmama」を見学しました。このカフェは、独立行政法人都市再生機構（UR）と連携した「ローカルSDGs実施プロジェクト」として構想され、地域の人々が気軽に集まれる場を目指して2025年5月20日にオープンしました。UR住宅のテナントを湘南生活クラブ生協が借り受け、格安な家賃でW.Coパチャmamaに貸し出すことで取り組みが実現しました。

店内は広く、改装したばかりで清潔感があります。無垢材のテーブルや食器・家具家電は他のワーカーズコープから譲り受けたものです。カフェで提供されるメニューは国産・添加物削減・減農薬の食材にこだわり、弁当・惣菜・焼菓子の販売に加え、地場野菜や果物も扱っています。お弁当のテイクアウトは、近隣にスーパーがないため独居高齢者への支援にもつながっています。

また、地域の子どもの要望でかき氷を提供したところ、口コミで広がり、子どもが自主的にチラシ配りをおこなうなど、地域交流が活発化しています。さらに、子どもが安心して過ごせる場所として宿題を一緒にするなど、多世代が気軽に集える場となっています。

隣接する「コミュニティベース湘南」は、湘南生活クラブ生協がURから借り受け、貸しスペースとして運営しています。今後は「生活クラブの品物受取拠点」や「フードバンク・フードパントリー活動」を自治体・地域団体と連携して開始予定です。

これらの取り組みは、独居高齢者や買い物困難者、子どもの居場所づくりなど地域課題の解決につながるものであり、さまざまな取り組みを通じて、世代間交流をすすめている様子を伺うことができました。





# 活動報告

## 協働ひろめる助成

助成件数	21件
助成金総額	17,191,337円

# みんなの笑顔をつくる居場所づくり

- 一般社団法人チョイふる
- 東都生活協同組合

<https://www.instagram.com/flat.toto>



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

地域に開かれた居場所として、放課後の子ども事業(季節のイベント、出張プレイパーク等)や、包括支援センターから紹介のあった高齢者、学校のスクールソーシャルワーカー(SSW)、行政職員、不登校の子ども等も交えた「ごはんのイベント」を、月3回以上開催した。これらの取り組みを通じて、地域共生社会や社会的処方の実践につなげている。

また、夏休み期間には47コマの「夏休み体験講座プロジェクト」を実施し、すべての開館日に食事提供をおこなった。これにより、夏休み中の子どもたちの孤食や孤立の防止につながった。さらに、活動報告書を作成し、取り組み内容や「地域ささえあい助成」の紹介・周知にも活用した。今後は、これまでの実績を積極的に発信し、協賛・協働・協創の連携を模索するとともに、自走可能な運営体制の構築や多拠点展開に向けた場所探しをすすめていきたい。



## 他団体と協働することで発見したこと

他生協(地域のまちづくりの集まり、東京都生活協同組合連合会、日本生活協同組合連合会)との交流や活動の周知、連携をおこなうことができた。また、厚生労働省による地域共生社会に関するヒアリングにおいて、私たちの活動を取り上げていただき、関心を持ってもらう機会となった。

さらに、試食イベント車(キッチンカー)を活用し、拠点以外の場所でも出店することができ、活動の幅を広げることにつながった。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
4月	餃子の日 / お昼ごはんとおそびの日 / 中井さんのごはんの日 / 伊勢さんのカフェの日 / 放課後の居場所	103名
5月	お昼ごはんとおそびの日 / 中井さんのごはんの日 / 伊勢さんのカフェの日 / 放課後の居場所	98名
6月		109名
7月	お昼ごはんとおそびの日 / 中井さんのごはんの日 / 伊勢さんのカフェの日 / 放課後の居場所 / 夏休み体験講座PJ	360名
8月		360名
9月	お昼ごはんとおそびの日 / 中井さんのごはんの日 / 伊勢さんのカフェの日 / 放課後の居場所	107名
10月		105名
11月		96名
12月		201名
1月		145名
2月		236名
3月		270名



## 活動の成果と助成金により実現できたこと

本事業では、報償費として地域活動の担い手に謝礼を支払うことで、オリジナル性の高い講座企画を実施することができ、内容の質・量ともに充実した取り組みとなった。また、材料費を活用し、放課後の子どもたちの工作等に必要な材料をバラエティ豊かに整えることで、活動の幅と参加者の満足度向上につながった。さらに、広報費により活動報告書の作成やのぼり旗の購入をおこない、活動内容の周知と理解促進がすすむとともに、行政をはじめとする連携先との信頼関係の強化にもつながった。

# 六甲ウィメンズハウスに おけるコミュニティカフェ およびフードパントリー活動

- ・生活協同組合コープこうべ第3地区本部
- ・公益財団法人神戸学生青年センター

<https://rwh.jp/> <https://ksyc.jp/>



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

六甲ウィメンズハウス内のコミュニティカフェを拠点に、2025年4月より月2回、フードパントリー活動を通じて入居者への食料支援をおこないました。本活動により家計の負担軽減につながり、入居者が少しでも早く自立に近づくことを願っています。

また、地域住民や生活協同組合コープこうべの組合員・職員と入居者が「食」を通じて交流できる場として、10月にはおーがにつく食堂を開催し、安全でおいしい有機野菜を使った食事を提供しました。2月には韓国の正月料理をみんなで作り、食を囲む交流の機会を設けました。

さらに、コーヒーとピザのおひるごはんを開催し、地域の方々が気軽に六甲ウィメンズハウスを訪れる機会を提供しています。子ども食堂および学習支援活動では、入居者の子どもに加え地域の子どもの参加可能とし、地域と入居者、子ども同士の交流促進につなげています。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
6月4日	kioskさん、コーヒーとピザのおひるごはん	33名
8月26日	kioskさん、コーヒーとピザのおひるごはん	22名
10月29日	kioskさん、コーヒーとピザのおひるごはん	20名
2月25日	kioskさん、コーヒーとベーグルのランチタイム	23名
3月25日	コーヒーとベーグルのランチタイム	15名
10月18日	コープ鶴甲祭おーがにつく食堂	49名
2月28日	六甲ウィメンズハウス韓国料理教室	16名
7月～8月	夏休み期間、子ども食堂および学習支援	69名
9月～3月	2/4週木曜日開催、子ども食堂および学習支援	194名
4月～3月	毎月2回開催、フードパントリー活動	入居者25世帯対象



## 他団体と協働することで発見したこと

2025年度より開始した子ども食堂および学習支援活動には、神戸大学総合ボランティアセンターのメンバーおよび子ども教育学科の学生の皆さんが、ボランティアグループを中心としてかかわっています。

六甲ウィメンズハウスの活動に地域の大学生が加わることで、入居者の子どもはもちろん、地域の子どものためにも学習意欲や学習能力の向上への期待感が高まっています。また、大学生がお兄さん・お姉さんの存在として寄り添うことで親密な関係が築かれ、子どもたちの心身の発達にも良い影響を与えています。

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

毎月実施しているフードパントリー活動では、冷蔵・冷凍食品の保管場所が大きな課題でしたが、助成金により大型冷蔵冷凍庫を購入したことで、長期間の保管が可能となりました。これにより、平日は忙しい入居者にも週末を活用して食料品を提供でき、入居者全員に平等な支援がおこなえるようになりました。また、今年度は子ども食堂や学習支援活動を実施し、地域の大学生の理解と関心が深まり、学生の参加を通じて地域の子どもの入居者の子どもたちの交流も広がっています。

# 「本」でつながるまちづくり —子どもの安心を広げる プロジェクト

- NPO法人子どもサポートステーション・たねとしずく
- 生活協同組合コープこうべ第2地区本部

<https://tanetosizuku.com/>



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

西宮市内には約2,300世帯のひとり親家庭があるが、当団体がつながることができるのは約70世帯にとどまっている。また、独自調査により、ひとり親家庭において読書や芸術、遊びなどの体験機会に大きな格差が生じていることが明らかとなった。一団体による支援には限界があることから、地域全体で子どもを支える基盤づくりが急務となっている。

そこで、図書館併設のユースセンターという強みを活かし、「子どもの権利」を軸とした子ども支援講座の開催、他団体と連携した移動図書館の実施、支援団体紹介リーフレットの作成など、人材育成と連携強化に取り組んだ。あわせて、寄付本やおおぞら図書館を活用した地域夏祭りの開催により、体験機会の創出をはかった。

さらに、ひとり親家庭への絵本訪問や、本と遊びを組み合わせた体験イベントなど、個別・直接支援も実施した。多様な団体との協働を通じて、市内全域でひとり親家庭を支えるネットワークを強化し、家庭の経済状況にかかわらず、すべての子どもが豊かな体験を享受できる社会の実現を目指している。



## 他団体と協働することで発見したこと

協働を通じて、各団体の理念や強みを理解することができ、当団体の受益者であるひとり親家庭を安心して紹介できるようになった。受益者にとって頼れる先が増えていく様子が見られ、一団体ですべてを担う必要はないという安心感にもつながっている。あわせて、「子どもの権利」やセーフガーディング(暴力の防止)に対する関心の高さも実感した。

また、地域夏祭りの実施において、コープこうべが地域で培ってきた信頼が、他団体や企業による協賛や出店へとつながった。出店、移動図書館、協賛など多様な協働メニューを用意したことで、支援の輪が広がり、団体ごとに協働へすすみやすい形が異なることも確認できた。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
5月	ひとり親家庭への絵本訪問、子ども支援者のための連続講座	3名/17名
6月	ひとり親家庭への絵本訪問	2名
7月	ひとり親家庭への絵本訪問	2名
8月	ろくたんじ夏祭り	900名
9月	本と遊びのイベント(ボードゲーム)、移動図書館(みんなの食堂)、ひとり親家庭への絵本訪問	4名/30名 /3名
10月	移動図書館(のんびりひろば)、ひとり親家庭への絵本訪問	10名/4名
11月	移動図書館(みんなの食堂)、本と遊びのイベント(ボードゲーム)、ひとり親家庭への絵本訪問、本と遊びのイベント(版画)	20名/11名 /2名/4名
12月	本と遊びのイベント(ボードゲーム)、本と遊びのイベント(版画)、ひとり親家庭への絵本訪問	11名/2名 /9名
2月	本と遊びのイベント(ボードゲーム)、ひとり親家庭への絵本訪問	9名/2名
3月	本と遊びのイベント(ボードゲーム)、ひとり親家庭への絵本訪問	6名/2名



## 活動の成果と助成金により実現できたこと

過去2年間に実施してきた支援者育成講座の知見を活かし、今年度は自前で研修講座を構築し、登壇できる体制を整えた。過去に受講した市内団体とは、イベントの共催や利用者の相互紹介、食料支援の拠点協力など、実務面での連携をすすめている。地域に開かれた夏祭りでは、助成金を活用して多くの備品を整備し、学生や一般ボランティア約50人が参加するなど、活動への参画の場となった。さらに、企業に対しては協賛にとどまらず、出店や子どもたちとの交流など多様な協力の形を提示し、連携の幅を広げた。

こうした取り組みを通じて、地域全体で子どもを支える基盤が着実に強まりつつある。

# 未来を育む！ 食と自然体験 プログラム

- ・北海道生活協同組合連合会
- ・株式会社FUJI
- ・特定非営利活動法人ひとり親と子どもふぉーらむ北海道

[https://www.doren.coop/pdf\\_news/202512\\_doren.pdf](https://www.doren.coop/pdf_news/202512_doren.pdf)  
[https://h-wakamono-ouen.amebaownd.com/pages/7233910/page\\_202308301607](https://h-wakamono-ouen.amebaownd.com/pages/7233910/page_202308301607)



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

経済的理由や家庭環境による「体験の格差」が課題となる中、子どもたちが学校外で自然や食に触れる機会が不足しています。また、孤立しがちな家庭の「居場所づくり」や、次世代を担う若者が地域課題に主体的に関わる仕組みづくりも求められています。こうした課題を踏まえ、本活動では札幌近郊の豊かな自然を舞台に、食と環境をテーマとした体験型プログラムを年間7回おこないました。札幌市内のひとり親家庭や、子ども食堂の参加者を対象に、野菜の収穫・調理、酪農体験、環境学習ツアーなどを実施しました。学生ボランティアの協力のもと、多世代が共に学ぶ場を創出し、実体験を通じて子どもたちの食への感謝や環境意識を育み、心身の健やかな成長を支援しました。親子や学生との対話を通じて地域の絆を深め、誰もが安心して過ごせる温かなコミュニティの実現を目指しています。



## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
5月	未来へつなぐ青い海と資源！なるほど発見！エコ体験ツアー	47名
6月	牧場の恵みを体験！親子で酪農チャレンジ	51名
7月	夏の恵み、親子で挑戦！ブルーベリーを収穫してアイスクリーム作り体験	37名
8月	牧場の恵みを体験！親子で酪農チャレンジ	48名
9月	森と遊ぼう！Fの森フェスティバル in 当別	78名
10月	キャベツとじゃがいもを収穫してホットドックで食べよう	41名
10月	ごみはどこへ？川の魚は元気かな？親子で探る、くらしと自然のつながり発見ツアー	40名



## 他団体と協働することで発見したこと

協働により、単独では困難な「体験格差の解消」や「子どもの居場所づくり」といった多角的な社会課題へのアプローチが可能となりました。現場での直接交流は、組織の壁を越えた支援の輪を広げるメリットを生んでいます。今後は、学生の視点や機動力を活かした継続的な体験学習の提供や、基金を通じた地域ネットワークの強化が鍵となります。これらにより、次世代育成と地域共生を軸とした、より持続的で実効性の高い活動へと発展させることを課題としています。

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

ひとり親世帯や子ども食堂を利用する親子約300名（事務局関係者を除く）を対象に、「食と自然体験プログラム」を実現しました。本活動により、経済的理由などで体験機会が減少している子どもたちに対し、野菜収穫や酪農体験を通じた食育・環境学習の場を、継続的に提供できています。また、学生ボランティアも体験プログラムに参加するなど、多世代が食や一次産業への理解を深める機会となりました。助成金は主としてバス代や体験料に充てられ、団体間の強固な連携・協力による、実効性の高い支援を支えることができました。

# ならから広がるもったいないの輪 ～フードバンク活動～

- ・ もったいないNARA
- ・ 市民生活協同組合ならコープ
- ・ 奈良県生活協同組合連合会

<https://mottainainara.jimdofree.com/>



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

日々の食事に困っている家庭や子どもたちがいる一方で、わが国では年間464万トン（2023年度推計）の食品ロスが発生している。もったいないNARAでは、こうした「もったいない」状況を福祉と環境の両面から解決することを目的に活動している。ならコープ店舗などで実施されるフードドライブで集まった食品やキャンセル品を全量受け入れ、奈良県内の他のフードバンク団体へ毎月均等に配布した。また、週に一度、未利用の生鮮食品を譲り受け、市町村社会福祉協議会などの福祉団体へ配布している。さらに、不定期ではあるが、困窮学生への食品配布もおこなった。2025年4月から2026年2月までの食品取扱量は、受入量6,646.1kg、配布量6,626.0kgであった。加えて、2026年2月には「食を通じたネットワークづくり交流会」を開催した。また、食品ロス削減の啓発として、クイズやゲームを活用した取り組みを計9回おこなった。



## 他団体と協働することで発見したこと

もったいないNARAは、ならコープからの食品提供を受け、2023年度より活動を開始していた。今般の助成事業において「協働」を明確に位置づけたことで、今年度からは当初は対象外であった生鮮食品の提供も受けるようになった。さらに、毎月15日のみ実施していた店舗でのフードドライブに加え、常設のフードドライブボックスを設置する店舗が増加し、今後は全店舗への拡大が予定されている。このほか、広報面での協力も得られた。交流会では双方のスタッフが運営に携わり、協働によるフードバンク活動を通じて一体感が醸成された。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
毎月	最終水曜日に奈良県内フードバンク団体に食品配布・配布	3,974.3kg
毎月	毎月曜日に奈良県内社会福祉協議会・福祉施設等に生鮮食品配布・配布	2,642.2kg
7月	奈良県内学生に食品配布（若者応援プロジェクト奈良）・配布	9.5kg
毎月	15日、ならコープフードドライブおよび啓発活動・受入	2,840.3kg
4月	ならコープ本部にフードドライブボックス設置・受入	30.4kg
4月～	ならコープ店舗内にフードドライブボックス設置、順次5店舗まで増設・受入	429.0kg
11月	ならコープフードドライブサポーター、もったいないNARAボランティア等対象食品管理に関する学習会	参加 16名
2月	「食を通じたネットワークづくり交流会」（食品を譲渡する側と受け取る側の交流の場）	参加 43名
1月・3月	食品ロス削減啓発のためのデザイン制作・チラシの作成・印刷、リーフレット	3,000部 1,000部
3月	フードドライブ活動拡大のため等のデザイン制作・チラシ作成・印刷	2,000部



## 活動の成果と助成金により実現できたこと

助成事業の実施により、奈良県内のフードバンク団体への食品提供量は、ほとんどの月で増加した。4月からは生鮮食品を市町村社会福祉協議会や福祉施設などへ提供できるようになり、特にバナナは好評であった。助成金によりコンテナなどの備品を整備したことで、常設フードドライブボックスの設置や取扱食品量の増加にもつながった。さらに、助成金を活用して開催した「食を通じたネットワークづくり交流会」には、市町村社会福祉協議会を中心に43名が参加し、有意義な交流の場となった。

# 地域共生社会づくりへの協働の活動

- ・わかやま市民生活協同組合
- ・社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会

## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

生協から県社協へ寄付した商品を、県内の市町村社協を通じて、子ども食堂や生活困窮者へ届ける取り組みは、2年目を迎えました。

この間の物価高で子ども食堂は食材寄付などが減少しています。また、生活困窮者はますます生活が苦しい状況だと聞いています。

そのような背景の中、2025年度は8,833点、3,999,217円分、2年間累計では16,387点、7,102,325円分の物資を提供することができました。

また、子育て支援の活動として田辺・新宮地域でおこなった「0歳児からの音楽会」には、194家族501人が参加し、「大変良かった」との評価が96.0%を占めました。次年度も継続して取り組んでほしいなどの声が寄せられました。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
5月	第1回商品寄付 1,752点	677,381円
7月	第2回商品寄付 1,405点	761,558円
8月	第3回商品寄付 1,750点	743,356円
11月	第4回商品寄付 821点	341,463円
1月	第5回商品寄付 1,229点	602,760円
2月	「0歳児からの音楽会」 in 田辺 紀南文化会館小ホール	401名
3月	第6回商品寄贈 1,876点 「0歳児からの音楽会」 in 新宮 新宮市福祉センター 1F	100名



## 他団体と協働することで発見したこと

寄付した商品が、県内30市町村の社協を通じて県内すみずみまで届けられていることを実感しています。わかやま市民生活協の総代からは、「子ども食堂を運営しています。田辺市社協から生協より寄贈された商品を受け取りました。大変助かりました」との声が寄せられました。また、子育て支援として開催した「0歳児からの音楽会」は、地元の社協と協力することにより、市や教育委員会、地元マスコミの後援をいただきました。生協の組合員以外の参加者が半数参加する企画となり、他団体との連携により多くの方に取り組みを知っていただく機会となりました。

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

子育て支援として企画した「0歳児からの音楽会」は、これまで開催実績のなかった紀南地域の田辺市と新宮市で開催することができました。演者の謝礼金、チラシの印刷代、会場使用料に助成金を活用したことで、限られた予算の中でも地域の活動を前向きに企画する後押しとなりました。参加者からは、多くの感謝の声が寄せられました。また、寄付品に関する活動では、物流・輸配送費および備品購入費に助成金を活用しました。

# 子ども第三の居場所事業 「ふきのとう・こどもクラブ」 活動

- ・生活協同組合コープさっぽろ
- ・公益財団法人ふきのとう文庫

<http://www.fukinotou.org>



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

地域の子どもの居場所として根付くことを目指しています。桑園地区には学童保育および児童会館はありますが、いつも混雑しており、学校を終えた児童たちが、のんびりと楽しく遊び過ごせる場、読書も勉強もできる安心して過ごせる居場所であることを目指しています。また、登校が難しい状況にある子どもたちが過ごせる場としても、小学生低学年から中学生まで幅広く受け入れ、子どもたちの自主性と仲間形成にも役立つことを目指します。地域との交流も深め、札幌市・桑園地区の歴史的な施設に学ぶ機会も増やし、北海道大学博物館、植物園への訪問などのプログラムを折り入れていきます。

今後、子どもたちの困りごとに寄り添う新しい取り組みとして、学習支援の活動を計画しています。

「つまずき科目のサポート(仮称)」として、個別塾のような形で、子どもたちが苦手としている教科を一人ひとりに合わせて支援します。

元教師などの経験ある講師の協力を得ながら、安心して学べる環境づくりをすすめていく予定です。



## 他団体と協働することで発見したこと

コープさっぽろトドックステーションとの交流として、「読み聞かせ会」の見学や「ふきのとう文庫紹介コーナー」の展示などをおこない、ふきのとう・こどもクラブの運営に活かしています。

また、トドック子どもクラブの運営においても、タブレットやスマートフォンの適正な使用について参考にしています。

ふきのとう文庫からは、入れ替え本の活用として、トドック子どもクラブへ絵本および児童書70冊の提供をおこない、活用いただき好評を得ています。

さらに、ふきのとう文庫内に「トドックコーナー」を設けることで、利用者への生協アピールにつながり、コープさっぽろとの協働の取り組みがすすんでいます。

ふきのとう文庫では多くの団体視察を受け入れていますが、今年度は武蔵短期大学からの視察(30名)および、ふきのとう文庫講座(70名)において、学生ボランティア参加の調整が進展しました。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
4月	入会ようこそ会・お誕生会・新館開所式	65名
5月	5月5日こどもの日・お誕生会・おたる水族館見学	50名
6月	農業体験(水族館見学へ変更)・お誕生会	56名
7月	七夕の集い・お誕生会	37名
8月	北大博物館見学・お誕生会	36名
9月	アイヌ文様切り絵イベント・お誕生会	20名
10月	ハロウィンまつり・お誕生会	35名
11月	手作り工作会・お誕生会	31名
12月	クリスマス会(ツリー作り)・お誕生会	40名
1月	書初め・百人一首・お誕生会	28名
2月	節分・バレンタインデー・お誕生会	29名
3月	ひなまつり(飾り作り)・お誕生会	35名



## 活動の成果と助成金により実現できたこと

運営資金不足により事業継続が課題となっていました、「協働ひろめる助成」を受けたことで、2025年度計画事業をすすめることができました。

子どもたちの一番のお楽しみである「おやつタイム」では、限られた予算の中、手作りおやつが好評でした。たこ焼き、ぎょうざ、おにぎり、豚汁などを、皆で作って食べる楽しさを体験しました。

バスツアーはおたる水族館へ変更し、海の生き物についての学習とイルカショーを楽しむことができました。

また、ふきのとう・こどもクラブ関連スタッフの person 費、コピー・印刷費、支払い手数料などの運営費用にも活用し、日常運営を支える貴重な資金として有効に活用しています。



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

地域住民の健康づくりと多世代交流の機会創出を目的に、コープミ二月が丘内コミュニティスペース「つきのわ」において、月1回の対面体操とウォーキング、2ヶ月に一度の体力測定を実施し、日常的に体を動かす習慣づくりに取り組みました。また、自治会集会所でも対面体操もおこない、各活動の場でイベント等の広報をおこない、地域住民同士が交流しやすい環境づくりに努めました。さらに、ふれあいのまちづくり協議会主催の運動会や青少年協議会主催の夏休みラジオ体操ではニュースポーツ体験を実施し、多世代交流を促進しました。加えて、地域における子どもの受け皿不足という課題を受け、部活動地域移行の一環として小中学生対象の陸上クラブを設立し、地域全体で子どもたちの成長を支える仕組みづくりをすすめました。



## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
4月	つきのわウォーキング5名、つきのわしんしん体操10名、集会所体操17名	32名
5月	つきのわウォーキング4名(雨天ラダートレーニング)、つきのわしんしん体操&体力測定8名、集会所体操15名	27名
6月	つきのわウォーキング4名(雨天ニュースポーツ)、つきのわしんしん体操7名、集会所体操17名	28名
7月	つきのわウォーキング5名(熱中症予防屋内でわなげ)、つきのわしんしん体操&体力測定7名、集会所体操15名、ラジオ体操ニュースポーツ体験約80名	107名
8月	インターンシップの学生と小学生でスポーツ体験(ポッチャなど)20名、集会所体操17名、ラジオ体操後のニュースポーツ体験4日間約80名	117名
9月	つきのわウォーキング4名、つきのわしんしん体操&体力測定3名、集会所体操20名、ふれまち体操20名	47名
10月	つきのわウォーキング4名、つきのわしんしん体操5名、集会所体操18名、ふれまち体操20名、つきのわ陸上クラブ6	53名
11月	つきのわウォーキング5名、つきのわしんしん体操&体力測定4名、集会所体操25名、つきのわ陸上クラブ5	39名
12月	つきのわウォーキング4名、つきのわしんしん体操6名、集会所体操15名、つきのわ陸上クラブ5	30名
1月	つきのわウォーキング5名、つきのわしんしん体操&体力測定8名、集会所体操18名、つきのわ陸上クラブ8	39名
2月	つきのわウォーキング4名、つきのわしんしん体操6名、集会所体操17名、つきのわ陸上クラブ14名、こどもワクワクDAYイベント(ニュースポーツ)約50名	91名
3月	つきのわウォーキング4名、つきのわしんしん体操&体力測定8名、集会所体操25名、つきのわ陸上クラブ18	55名

## 他団体と協働することで発見したこと

自治会やふれあいのまちづくり協議会の代表、区役所、地域食堂担当者などで構成される運営委員会や学校開放委員会に継続的に参加することで、運動指導者の高齢化や子どもの居場所不足といった課題があるとわかり、必要な取り組みの方向性を関係者間で共有できました。また、団体間の連携により、活動の周知や参加促進がこれまで以上に円滑になり、新たな参加者の増加や多世代交流の広がりにもつながりました。こうした協働を通じて、地域全体で支え合う持続可能な仕組みづくりの重要性と可能性を実感しました。

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

助成金は主に、陸上クラブ立ち上げに伴うユニフォーム(Tシャツ)の作成、指導者謝金、専門用具の購入に活用しました。ユニフォームの着用により、町内での活動時の視認性が高まり、安全性の向上とともに地域住民への周知がすすみ、応援の声が寄せられるなど地域とのつながりが生まれました。また、立ち上げ時に必要な人材確保や環境整備が可能となり、安定した運営基盤を整えることができました。これにより、今後の継続的な活動において経費負担の軽減にもつながっています。

# だーこキッチン/居場所 づくり、子ども食堂、 学習支援

- 生活協同組合コープみえ
- 一般社団法人だーこ
- 社会福祉法人伊賀市社会福祉協議会

[https://www.instagram.com/dacolabo/reels/?\\_\\_d=1%2F](https://www.instagram.com/dacolabo/reels/?__d=1%2F)



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

2024年より、子ども食堂やブックカフェなどの居場所運営をおこなう中で、自習室に通っていた高校生が大学進学後、地元の子どもたちへオンラインで学習支援をおこなう「だーこ先生」の仕組みを構築しました。子ども食堂では年間20回以上、延べ約600名に無料弁当を提供してきましたが、食料支援だけでは十分ではなく、学習支援の必要性を実感しました。

そこで2025年4月より、伊賀市社会福祉協議会と連携し、「いがっこの家」において、困窮家庭の中学生3名を対象に学習支援を開始しました。さらに本助成を活用し、一般の児童・生徒を対象とした無料塾を夏休みに開催しました。事前に伊賀市教育委員会へ説明をおこない、伊賀市立崇広中学校および伊賀市立西小学校に協力を依頼しました。募集の結果、延べ92名の小中学生が参加し、アンケートでは満足度90%以上の評価を得ました。今後も継続的な学習支援を通じ、子どもたちの自立を支える環境づくりを目指します。



## 他団体と協働することで発見したこと

コープみえから食材提供を受けることで、生活困窮家庭に対し、定期的かつ安定した食料支援が可能となりました。また、地域の福祉活動に尽力する団体として、コープみえ広報課の取材を通じて組合員向けに情報が発信され、FM三重でも取り上げられました。

本取り組みをきっかけに、伊賀市柘植地域で地域食堂を運営する「つばめカフェ」とのつながりも生まれ、今後の地域食堂の取り組みに広がり期待されます。さらに、食料配布や地域の飲食店による弁当提供を通じて、子どもや保護者との継続的な関わりが生まれ、信頼関係の構築につながることを実感しました。加えて、伊賀市社会福祉協議会からの専門家派遣により、資金調達や事業運営に関する知識を得ることができ、関係機関との連携が支援の質と継続性を高めるうえで重要であると学びました。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
4月	無料弁当配布	30名
5月	困窮家庭食料支援(米や食材)	6名
6月	困窮家庭食糧支援(生鮮食品)	6名
7月	無料弁当配布	150名
8月	無料弁当配布、無料塾(92人)	302名
9月	無料弁当配布	30名
10月	困窮家庭食料支援	6名
11月	困窮家庭食糧支援	6名
12月	無料弁当配布、お菓子配布(60人)、困窮家庭食料支援	156名
1月	困窮家庭食料支援	6名
2月	困窮家庭食料支援	6名
3月	無料弁当配布	50名



## 活動の成果と助成金により実現できたこと

本助成金を活用し、夏休みに無料塾を開催することで、生活困窮家庭の子どもを含め、すべての子どもが平等に同じ空間で学びあう機会を提供することができました。参加した中学1年生の生徒は、保護者から早期就労を勧められていましたが、大学生講師との対話を通じて、資格取得の重要性や、働きながら通える定時制高校の存在を知り、進学に関心を持つようになりました。

年齢の近い大学生による寄り添い型の学習支援は、学習意欲の向上や将来への意識形成に大きな効果をもたらすことを実感しています。本助成により、子どもたちの将来の可能性を広げる支援を実現することができました。

# LFA Japanとコープこうべが 織りなす食物アレルギーに 優しいまちづくり

- ・ 一般社団法人LFA Japan
- ・ 生活協同組合コープこうべ第2地区本部

<https://lfajp.com/index.html>



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

食物アレルギーは命に関わる可能性がある一方、地域活動や子ども食堂、防災時の炊き出し等では理解や対応が十分でなく、参加を制限されるなど取り残されるケースがある。また、外見からわかりにくく、具体的な対応方法が現場で共有されていないことも課題となっている。

本事業では、「実践できる状態」をつくることを目的に、地域の担い手を対象とした食物アレルギーの基礎講座を実施するとともに、コープこうべの実店舗での買い物体験をおこない、食品表示の見方や判断の難しさを体感する機会を設けた。

さらに、地域で無理なく実施できるメニューを検討し、地域のお祭りや炊き出し訓練において実際に炊き出しをおこなった。実施後は課題や改善点を整理し、他地域でも展開可能なモデルとして整理した。

これらの取り組みを通じて、「対応が難しいため排除する」のではなく、「工夫により参加できる形をつくる」という視点を地域に広げ、誰ひとり取り残さない食の環境の実現を目指している。



## 他団体と協働することで発見したこと

食物アレルギーに関する知識は一定程度共有されているものの、「現場では対応が難しい」という認識から、参加を制限せざるを得ない地域活動が少なくない現状がある。知識としての理解と、現場での実践との間には隔たりがあることが明らかとなった。コープこうべにおいても、安全面への配慮を重視する中で、参加を制限する表示を掲示してきた経緯がある。表示方法や調理工程の工夫を共有することで、地域で活動・発信する担い手の間に「制限する」だけでなく「参加できる形をつくる」という視点への変化が見られた。

こうした取り組みを通じて、食物アレルギーへの対応は特別なものではなく、工夫次第で地域でも実践可能であるという認識が広がりつつある。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
5月	講座：食物アレルギーの基礎知識	20名
6月	講座：食物表示の見方&店内ショッピングツアー	38名
7月	講座：低アレルゲンについて&メニュー決め	18名
8月	実習：メニュー選定調理実習	20名
9月	実習：メニュー試食と決定&役割決め	12名
10月	実践：兵庫県西宮市 市民祭りにて炊き出し訓練	19名
12月	講座：反省会&改善点会議	7名
1月	実践：兵庫県芦屋市 小学校にて炊き出し訓練	11名
	※コープこうべおよび、LFA Japanからのスタッフを除く参加者数	



## 活動の成果と助成金により実現できたこと

助成金により安定した運営資金を確保できたことで、炊き出しメニューを実際の祭りや訓練の場で継続的に実施し、1年間にわたり検証と改善を重ねることができた。この試行錯誤を通じて、当事者のニーズと支援する側の認識との間にあるギャップが明確となり、その解消に向けて双方で検討をすすめることが可能となった。

その結果、地域で無理なく実践できる訓練モデルを構築し、他地域にも展開可能な形で提示することができた。また、デジタルでの配布に加え、あえて紙媒体の冊子を配布したことで、地域を担う世代へ直接情報を届けることができ、活動への関心を高める確かな契機となった。

# 誰もが集える居場所作り 富山型共生・共助コミュニティ ありみね

- ・ とやま生活協同組合
- ・ 特定非営利活動法人ありみね

## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

年に2回の農業体験と親睦・交流会や、定期的に備蓄米の袋詰め作業や勉強会を開催した。農業や食の安全について理解を深めることと、有事の際の備蓄や食料自給率への関心を通して、防災意識を高めること等も目的とした。年に3回の子ども食堂では、食材の提供や衣類などのチャリティショップも開催し、子ども達の食事だけではなく、キッズスペースの運営や子育て世帯全般への支援や交流を試みた。タウンミーティングでの活動紹介や、着物・お茶など日本文化に関心のあるグループの定例会、地域住民のお茶会、県外学生の田舎暮らし体験、社会課題を抱える当事者や家族、高齢者や地域住民、居場所創りに賛同する様々なバックグラウンドを持つ人々が主体となり、居場所作りや運営活動、行事開催などを通して、役割や学び・つながりが広がる居場所となった。



## 他団体と協働することで発見したこと

とやま生活協同組合から、子ども食堂や居場所での食材提供に加え、高齢化・限界集落地域への移動販売を毎週1回おこなうことで、食を通じた多世代への支援と交流が可能になった。さらに、安心・安全なお米作りを理念とする農家や、食の安全をコンセプトとした食堂、共生共助のコミュニティ、居場所との協働の仕組みがうまくつながり、循環しながら、多様な活動や人、地域へと広がっていくことを実感した。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
4月	「結の会」年間活動会議・食の勉強会・相談交流会	15名
5月	「結の会 農業体験イベント&交流会」・「こども食堂」会議・相談交流会	30名
6月	タウンミーティングにて活動報告会・防災ワークショップ・移動販売	65名
7月	移動販売・個別相談	23名
8月	「こども食堂」・田舎暮らし体験・移動販売・個別相談	95名
9月	「結の会 農業体験イベント&交流会」・「敬老会」・移動販売・個別相談	55名
10月	「満月会」・防災ワークショップ・移動販売・個別相談	38名
11月	「満月会」・移動販売・見学会	33名
12月	「こども食堂」・移動販売・個別相談	70名
1月	移動販売・個別相談	17名
2月	移動販売・個別相談	22名
3月	「こども食堂」・「珪藻土塗りワークショップ」・「ひな祭り会」・移動販売	75名



## 活動の成果と助成金により実現できたこと

助成金は、子ども食堂の食材費やイベント行事での食品代の一部として活用した。子ども食堂では毎回約200食が提供され、居場所となる結真館での行事でも、助成金を活用した食品を提供し、楽しい集まりとなった。材料費で、居場所のリフォームに取り掛かった。作業自体も、社会参加や交流の場となった。人件費や報償費をいただいたことで、居場所や活動の運営、社会参加・復帰の足掛かり、役割や目標の創出、多種多様な活動への挑戦に役立てることができた。

# 地域住民の買い物支援、 高齢者見守りおよび生きがい 創出などの地域支援関連活動

- ・生活協同組合コープあきた
- ・NPO法人南外さいかい市

<http://n-saikaiichi.sakura.ne.jp>



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

令和元年に公設民営のスーパーを立ち上げ、令和2年からは、来店が困難な人を対象に移動販売を開始した。さらに、食生活の改善を目的として、令和5年から80歳以上を対象とした「おらだのサロン」を開設した。

利用者からは、令和4年以降の無医地区化や、令和5年のデイサービス事業所の廃止により、医療機関への通院が困難になっているとの声が寄せられた。こうした課題を受け、令和6年からは出張販売とあわせて、医療機関への無料送迎を開始した。

「おらだのサロン」や「健康サロン」では、血圧測定等を実施し、診察時に活用できる記録資料として提供している。今後は、月1回程度、南外地域において医師の診察を受けられる体制の構築についても検討していきたい。



## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
毎月	健康サロン(65歳以上)・健康体操他	119名
毎月	おらだのサロン(80歳以上)・リズム体操他	266名
毎月	医療機関送迎活動	299名
11月	高齢者交流会・コッキーズ演奏会、演芸発表会	98名
9月・3月	徳五郎昔話 きよてんまつり(三館共同イベント)・冊子発行、他イベント	109名
3月	民俗行事・ひな祭り、どんど焼き	58名



## 他団体と協働することで発見したこと

大仙市、大仙市社会福祉協議会、婦人会、老人クラブ等と共催することで、他団体からの協力・支援を得ることができ、活動の幅を広げることができた。地域内での情報交換から困りごとを共有し、改善策を検討する場づくりにつなげていく。

コープあきたとしては、本取り組みを地域貢献のモデルケースとして、店舗運営や地域住民への対応の参考にしたいと考えている。また、コープあきたが主催する企画や医療相談を地域で実施できないかといった声も寄せられており、今後も引き続き連携・協力をすすめていきたい。

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

助成金は、「健康サロン」および「おらだのサロン」で使用する食材や器具の購入に活用した。これにより、高齢者同士や地域住民とのつながりが生まれ、健康寿命の延伸につながる取り組みとなっている。

また、医療機関への送迎については、人件費や車両リース費、車両借上費等に活用し、通院が困難な高齢者の支援を継続的にこなうことができた。



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

生活クラブ神奈川の旭センター3階には、旧職員寮の遊休スペースがあり、その活用が課題となっていました。居住支援事業をおこなっていた認定NPO法人さくらんぼから、同スペースを活用した協働による居住支援活動の提案を受け、協議を重ねた結果、プロジェクトとして検討をすすめ、2023年4月に「ホームタウンみなみ」を開設しました。

現在は、生活クラブ神奈川、認定NPO法人さくらんぼ、横浜みなみ生活クラブの3者で共同企業体を組織し、運営をおこなっています。認定NPO法人さくらんぼがシェアハウスを、横浜みなみ生活クラブが食堂・フードパントリー・保育スペースを担い、生活クラブ神奈川が物件の管理・メンテナンスを担当しています。あわせて、共同企業体会議および運営委員会を開催し、全体方針の決定や各事業の進捗確認をおこないながら、連携して取り組みをすすめています。



## 他団体と協働することで発見したこと

三者で協働することで、それぞれの強みやネットワークを活かしながら情報交換や助言をおこない、試行錯誤を重ねて取り組みをすすめています。共同ですすめているため具体的な協議ができ、円滑な連携につながっています。

地域への広がりを目指す中で、今年度は地域の子育て関連団体や子ども食堂、フードパントリーをおこなう団体と連携した活動を実施できたことを成果と捉えています。また、シェアハウスの入居者がフードパントリーを利用するだけでなく、運営を手伝うなどの関わりも生まれ、孤立を防ぎ、包摂的な地域づくりにつながっています。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
4月	Minnade/食堂(第3金曜日)とフードパントリー(第1水曜日・第3金曜日) Mitete/子育てひろば(月2~3回開催)	117名
5月	Minnade/食堂(第3金曜日)とフードパントリー(第1水曜日・第3金曜日) Mitete/子育てひろば(月2~3回開催) Nagomo/シェアハウス食事づくり、引っ越し手伝い	135名
6月	Minnade/食堂(第3金曜日)とフードパントリー(第1水曜日・第3金曜日) Mitete/ワンコインランチ(月1開催)と子育てひろば(月2~3回開催) Nagomo/シェアハウス食事づくり	133名
7月		107名
8月	Minnade/食堂(第3金曜日)とフードパントリー(第1水曜日・第3金曜日) Mitete/ワンコインランチ(月1開催)と子育てひろば(月2~3回開催)	119名
9月		129名
10月		131名
11月	Minnade/食堂(第3金曜日)とフードパントリー(第1水曜日・第3金曜日) Mitete/ワンコインランチ(月1開催)と子育てひろば(月2~3回開催) Nagomo/シェアハウス食事づくり	134名
12月		153名
1月	Minnade/食堂(第3金曜日)とフードパントリー(第1水曜日・第3金曜日) Mitete/ワンコインランチ(月1開催)と子育てひろば(月2~3回開催) Nagomo/シェアハウス清掃、入居者状況取りまとめ	101名
2月	Minnade/食堂(第3金曜日)とフードパントリー(第1水曜日・第3金曜日) Mitete/ワンコインランチ(月1開催)と子育てひろば(月2~3回開催) Nagomo/シェアハウス残置物処理、備品整理	140名
3月	Minnade/食堂(第3金曜日)とフードパントリー(第1水曜日・第3金曜日) Mitete/ワンコインランチ(月1開催)と子育てひろば(月2~3回開催) Nagomo/シェアハウス清掃	159名

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

助成金を活用し、「多世代食堂や子育てひろば」の情報をチラシで定期的に発信したことで、新規参加者の増加につながりました。また、物価高騰の中でも食材費を補い、年越しセットの配布をおこなうことで、安心して新年を迎えられる支援を実施しました。フードパントリーでは不足する食材を購入し、生活を下支えしました。あわせて、季節の飾り付けに必要な材料を購入したことで、参加する親子の満足度向上にもつながりました。居住支援においては、清掃や食事づくりを担う外部スタッフへの謝金を確保し、安定した運営体制と開かれた環境づくりをすすめた結果、入居者にとって過度な緊張のない関わりが生まれやすくなりました。

# 出前のびすく (地域における乳幼児親子の居場所づくり)

- ・ 特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク
- ・ みやぎ生活協同組合

<https://www.sefami-kosodate.jp/>  
<https://www.instagram.com/sendai.famisapo/>



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

乳幼児親子の居場所づくりとして、月2回「出前のびすく」を開催しました。転入者が多い地域特性から、地域とのつながりがほとんどない親子も多く、母親が孤立感を抱える場合があります。そこで、地域で子育てを楽しむためには人と人とのつながりが重要であると考え、地域の子育てサークルやボランティアに協力をお願いし、親子が交流しやすい場を一緒に検討しながらつくってきました。

初めての方でも気軽に参加できるようイベントを企画し、講師は地域で活動している方を中心にお願いしました。専門家にも協力いただくことで、母親の悩みに対応することができました。回を重ねるなかで顔見知りが増え、子育ての話で盛り上がる様子や、育児サークルに参加し始めるなどの変化がみられました。また、児童館や社会福祉協議会、保健師などの見学を受け入れることにより、地域の居場所として認識していただくことができました。



## 他団体と協働することで発見したこと

会場の確保がスムーズにできたほか、店舗内でのチラシ掲示やホームページでの告知など、広報面でもご協力いただきました。また、エリアサポーターとの事前打ち合わせを実施したことで、十分な意思疎通がはかれた状態で取り組みを始めることができました。

さらに、集会所を拠点に活動しているグループにもイベント講師を依頼し、活動を広める機会にもなりました。エリアサポーターから店舗の祭りへの協力依頼が寄せられるなど、活動の広がりを感じることができました。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
4月	なかよしひろば 「リトミック with English」	10組20名
5月	なかよしひろば 「親子のふれあいチャイルドヨガ」 にこにこひろば 「リトミック音楽であそぼう」	7組14名 4組9名
6月	なかよしひろば 「みんなであそぼう」 にこにこひろば(2回) 「えいごであそぼう」「リトミック with English」	5組10名 12組25名
7月	なかよしひろば 「魅力発見!おいしい味噌講座」/みやぎ生協まつり協力 にこにこひろば 「PPバンドでつくろう!キャンディーBOX」	6組12名 9組19名
8月	なかよしひろば 「えいごであそぼう」 にこにこひろば 「ママとキッズの音楽遊び」	10組23名 5組11名
9月	なかよしひろば 「おもちゃひろば」 にこにこひろば(2回) 「リトミック with English」「チャイルドリンパマッサージ」	9組18名 16組32名
10月	なかよしひろば 「おしゃべり絵本リトミック」 にこにこひろば 「HAPPY!ハロウィン」	12組25名 9組19名
11月	なかよしひろば(2回) 「えいごであそぼう!」 「離乳食&栄養相談」 にこにこひろば 「おもちゃひろば」/みやぎ生協まつり協力	14組29名 4組8名
12月	なかよしひろば 「クリスマスお話し会」 にこにこひろば 「クリスマス会」	5組10名 4組9名
1月	なかよしひろば 「七草がゆを食べよう」 にこにこひろば 「バランスボール」	8組16名 9組21名
2月	なかよしひろば 「なかよしカフェHugはぐ」 にこにこひろば 「やってみよう!手形足形アート」	7組16名 10組21名
3月	なかよしひろば 「桃の節句~ちらし寿司を食べよう~」 にこにこひろば 「つくって遊ぼう!」	7組14名 6組12名

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

専門家やイベント講師への謝金として活用させていただきました。保健センターに向いて相談することに敷居の高さを感じている親も多く、気軽に話せる場であったからこそ相談できた方も多かったと実感しています。

また、イベント講師の多くが地域で活動している方であったため、活動を体験できる機会となると同時に、地域活動につながったという声も聞かれました。

会場となる店舗は公共交通機関での来場が難しい立地であり、店舗の駐車場もお客様優先であったことから、シェアカーやタクシーなどの交通費として使うことができた点は、大変助かりました。

# つながりインターンシップ@ 協同～若者が協同の働き方を 学び、どう生きるかを考える～

- ・一般社団法人くらしサポート・ウィズ
- ・社会的連帯経済推進フォーラム
- ・パルシステム生活協同組合連合会

<https://kurashidial.or.jp/youth/internships/>  
<https://youtu.be/AIh4uLLQLa8>



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

当事業は、大学生等が協同組合や非営利組織でのインターンシップを通じて、協同をベースとした経済や社会の仕組みを学ぶことを目的としています。

一人ひとりが想いやアイデアを持ち寄り、自分たちのくらしのニーズを自ら満たしていくという協同組合の理念や仕組みを、若者にも知ってもらいたいとの思いから、2014年度より事業を開始しました。

当事業のねらいは、①参加学生の中から協同組合の組合員・職員を輩出すること、②複数の協同組合等が受入団体として参加することで協同組合間の協同を促進すること、③参加学生と受入団体の職員等が相互に学びあうことを通じて、協同の理念を担う人材を協同組合内外で育成することの3点です。

長期的な視野をもち、事業を継続することで、協同組合の理念に共感する人を増やし、助けあいや支えあいにもとづく社会を担う人材を育成することを目標としています。



## 他団体と協働することで発見したこと

パルシステム連合会との協働は、事業の継続的な運営において大きな支えとなっています。同時に、生協職員が当事業に参画することで、多様な協同組合や非営利組織の取り組みを知り、自組織の流通事業以外の側面に改めて気付く効果があることも明らかになりました。

また、社会的連帯経済推進フォーラムのメンバーをはじめとする研究者と連携することで、非営利・協同セクター全体の発展を俯瞰的に捉えることができ、当事業が持つ意義を見つめ直す機会となりました。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
4～6月	明治大学、駒澤大学、立教大学でゲストスピーカーとして協同組合概論講義と当事業の紹介	履修者数計約200名
6月	参加者の募集期間 / 説明会 (オンライン) 実施	参加者19名
7月	参加学生向け事前学習会 (オンライン)	参加者19名
	受入団体職員と参加学生の顔合わせおよび実習内容・日程の話し合い (オンライン)	参加者28名
8、9月	各受入団体での実習期間。参加学生18名(1名辞退)、受入団体窓口担当職員(20名)に加え、現地の実習担当職員多数。	38名以上
9月	企画学生2名の企画・運営による学生交流会	参加者26名
	OCoNoMiおおさか会議出席のため大阪出張	事務局2名で参加
10月	参加学生が実習を通じて発見した気付きや学びを報告する修了報告会(学生17名、受入団体・ゲスト19名、企画学生4名、事務局2名)	参加者42名
11月	受入団体・大学関係者らによる振り返り会議(オンライン)	出席者11名
	労働者協同組合440Hzによるホームページ改善の助言と技術指導	出席者4名
12月	修了報告書の作成、ホームページで公開のうえ関係者に共有	共有先82件
1～3月	当事業の理念と仕組みを整理した冊子の制作およびホームページ改善 OCoNoMiおおさか お仕事体験・交流会報告(摂南大学)に参加	冊子100部

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

まず、ホームページを大幅に改善しました。これにより、参加者の増加が見込めると考えています。

次に、当事業の理念や仕組みを整理した記録冊子を制作したことで、関係者間で共通のアイデンティティを形成するための基盤をつくることができました。

最後に、当事業と類似した取り組みを大阪・京都エリアでおこなえたことです。オンラインや電話のみを通じたアドバイスには限界があるため、助成金を活用して現地へ赴き、関係者と直接打ち合わせをおこない、終了後の報告会にも参加できたことは、大変有意義でした。

# 共食を通じたケアと協働のプロジェクト2025

- ・生活協同組合コープぎふ
- ・社会福祉法人いぶき福祉会

<https://ibuki-komado.com/>  
<https://note.com/ibuki2020>



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

コープぎふとは30年来、イベントや商品取り扱いなどで協働してきましたが、お互いが大切にしてきた「食」を軸に、一緒に場をつくる協働には、なかなか踏み込んでいませんでした。

孤独・孤立が社会課題となる中、孤食の日常を撮り続けてきた写真家との出会いをきっかけに、多様な共食の場づくりをともに考えていくことになりました。

4月には写真展とあわせて学習会（アーティストトーク、共食トークセッション）を開催し、8月には「いーとかーど」養成講座もおこないました。翌年1月～3月には「岐阜の小さな隣人祭り」を5回おこない、障がいのある人、高齢者、外国にルーツを持つ子どもが、共に作り、共に食べる場をつくりました。

場所と関係性さえあれば人が集まる「日常の共食」の場を、シェアキッチンや店舗を活かして広げ、助成金に頼らない自律的な運営へ移行していきたいと考えています。

大学との研究連携も広がっており、他地域でも再現可能なモデルとして発信していくことを目標としています。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
4月	共食を考える学習会 アーティストトーク (写真家 福島あつし氏)	30名
	共食を考える学習会 共食トークセッション (写真家 福島あつし氏)	30名
	共食を考える学習会 共食トークセッション (CONERU 平塚弥生氏)	30名
8月	いーとかーどファシリテーター養成講座	16名
1月	岐阜の小さな隣人祭り第1回	20名
	岐阜の小さな隣人祭り第2回	25名
2月	岐阜の小さな隣人祭り第3回	25名
3月	岐阜の小さな隣人祭り第4回	30名
	岐阜の小さな隣人祭り第5回	50名



## 他団体と協働することで発見したこと

コープぎふといぶき福祉会、それぞれが培ってきた「場への信頼感」を掛け合わせることを大切にしています。生協のチャンネルを通すことで、いぶき福祉会だけでは届きにくい層にも情報が届き、理事が積極的に参加して下さる点も大きな力となっています。

また、つきの家、学藝の森CoE、ゆずりゆーずなど、異分野の団体と一緒に取り組むことで、互いにエンパワーし合えることもわかってきました。組織は違っても、「孤立をなんとかしたい」という思いは共通しており、「共食」が世代や分野を超えた共通言語になることを実感しています。

その結果、高齢化した自治会や地域の県庁職員などとも、思いがけないつながりが生まれました。

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

学習会の参加者は90名を超え、5回おこなった隣人祭りの延べ参加者は150名を超えました。障がいのある人、高齢者、子ども、外国にルーツを持つ方が同じ場に集い、事業への参加に加えて、中学生と利用者がラジオ番組を作ったり、名前呼び合関係が生まれるなど、目指してきたソーシャルキャピタルの醸成が、具体的な場面として現れてきました。

写真家を招いた展示と学習会を組み合わせ、一年にわたり地域での共食の場を繰り返し開く取り組みは、この助成がなければ踏み出せなかったと感じています。こうした協働の体験が、パートナーとの信頼関係の深化にもつながったと考えています。

# コミュニティ食堂と配食を通じた支え合い事業

- ・ 一般社団法人Teco
- ・ 生活協同組合パルシステム福島
- ・ いわき市平第31区

https://tecojapan.studio.site/  
 https://www.instagram.com/sya\_teco?igsh=MTRubnZ10XFqZ3p5dQ==



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

令和元年の東日本台風により甚大な被害を受けたいわき市平第31区(平窪地区)において、被災後に希薄化した地域のつながりの再構築と、心身の健康を支える居場所づくりを目的に、活動を継続しています。

2025年度は、月1回のコミュニティ食堂を軸に、多世代が食を囲みながら自然に交流できる場を提供しました。あわせて、季節のイベントを取り入れるとともに、春休み期間には子どもフリースクールを計4回おこない、食事提供と学習支援を組み合わせた居場所づくりにも取り組みました。

さらに、コミュニティ食堂の参加者のうち、生活状況に配慮が必要な世帯に対しては、来場時にテイクアウト弁当を提供したり、フードバンクからの食材をお渡ししたりするなど、無理のない形での個別支援もおこないました。

これらの取り組みにより、日常的に顔の見える関係性が育まれ、地域内でのゆるやかな支え合いの基盤づくりにつながりました。



## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
令和7年4月	※毎月、パルシステム福島より物資提供・活動報告 地元区会長と情報共有 Instagramでの情報発信 3者合同会議 コミュニティ食堂Hiraku(14日/第3火曜日開催)	子ども35名/大人46名 計81名
5月	コミュニティ食堂Hiraku(20日/第3火曜日) コミュニティ食堂食堂年間スケジュール等の チラシ配布	子ども57名/大人40名 計97名
6月	コミュニティ食堂Hiraku(17日/第3火曜日)	子ども25名/大人35名 計60名
7月	コミュニティ食堂Hiraku(15日/第3火曜日) ひらくぼこども夏祭り(コミュニティ食堂 ブース出展)	子ども31名/大人58名 計89名 ・約300名
8月	コミュニティ食堂Hiraku(19日/第3火曜日)	子ども20名/大人52名 計72名
9月	コミュニティ食堂Hiraku(16日/第3火曜日)	子ども31名/大人68名 計99名
10月	コミュニティ食堂Hiraku(21日/第3火曜日)	子ども37名/大人71名 計108名
11月	コミュニティ食堂Hiraku(18日/第3火曜日)	子ども44名/大人72名 計116名
12月	コミュニティ食堂Hirakuクリスマス会 (18日/第3火曜日)	子ども55名/大人71名 計126名
令和8年1月	コミュニティ食堂Hiraku(20日/第3火曜日)	子ども47名/大人69名 計116名
2月	コミュニティ食堂Hiraku(17日/第3火曜日) 春休みこどもフリースクールチラシ配布	子ども53名/大人68名 計121名
3月	コミュニティ食堂Hiraku(17日/第3火曜日) 春休みこどもフリースクール 各日9:00~15:00 ①楽器を作って演奏してみよう(24日) ②シークラスアート(25日) ③プログラミング体験(26日) ④手作りしゅうまいを作ろう(27日)	子ども51名/大人68名 計119名 ・①子ども29名 ・②子ども30名 ・③子ども24名 ・④子ども15名

## 他団体と協働することで発見したこと

本事業は、地元区およびパルシステム福島と連携して実施しました。地元区による回覧板での周知や、当日のボランティア参加を通じて、地域住民の主体的な関わりが促進されました。

また、パルシステム福島からの定期的(月1回)な食材提供に加え、子ども夏祭りでの協力や、フリースクールにおける食育講座(しゅうまい作り体験)をおこなったことで、活動の幅が広がりました。

こうした協働を通じて、それぞれの強みを活かしながら無理なく役割を分担することの重要性を実感するとともに、外部資源と地域資源がつながることで、より持続可能で温かな支援体制が生まれることが明らかになりました。

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

助成金を活用することで、安定した食材の確保や活動運営が可能となり、コミュニティ食堂を継続的に開催することができました。その結果、参加者数は徐々に増加し、子どもから高齢者まで、多世代の交流が日常的に生まれる場となっています。

また、継続的な関わりの中で、地域内のキーパーソンやボランティアの参加も広がり、活動を支える担い手の育成にもつながっています。さらに、コミュニティ食堂をきっかけに生活に困難を抱える世帯との接点生まれ、弁当の提供などを通じた無理のない支援を実現することができました。

助成金は、単なる資金面での支援にとどまらず、地域の支え合いの循環を生み出す基盤づくりに寄与しました。

# なんでも相談会・フードパントリー

- ・北毛保健生活協同組合
- ・渋川北群馬民主商工会

## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

悩み事相談会とフードパントリーを合わせた活動です。第10回(2025年7月20日)は来場者152世帯(416人分)で、相談者はなく、第11回(2025年12月21日)は来場者124世帯(350人分)で、健康相談や、就労相談、知的障がいに関する制度相談など計4件の相談が寄せられました。

物価高騰や米価高騰の影響により、従来通りの提供体制が困難となる中、登録制を導入し、相談者および提供対象を絞ることで、一人ひとりに対してより丁寧な対応をおこないました。

第10回の開催に向けては、4月から実行委員会を立ち上げ、12団体から選出された実行委員とともに、7月20日の開催までに計5回の実行委員会を開催して実施に至りました。

第11回の開催については、10月から準備を開始し、3回の実行委員会を開催して実施に至りました。

第11回では新たな協力団体が加わり、支援内容の幅がさらに広がりました。今後も協力団体の増加を意識しながら、貧困対策に向けた支援を継続・発展させていきたいと考えています。



## 他団体と協働することで発見したこと

各々が生業としている分野を活かして協力を得ることで、役割分担をしながら取り組むことができた。

特に企業への協力依頼については、早めにおこなう必要がある。企業によっては、社会貢献として多様な活動をおこなっていることを事前に調べることでできた。

また、地域社会福祉協議会と連携することで、地域の回覧板や自治体広報に告知することができた。さらに、ライオンズクラブなどの社会奉仕活動団体とのつながりを築くことができた。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
7月	第10回「なんでも相談会・フードパントリー」	来場者152世帯 416人分を渡す。 相談件数0件
12月	第11回「なんでも相談会・フードパントリー」	来場者124世帯 350人分を渡す。 相談件数4件



## 活動の成果と助成金により実現できたこと

支援品(食料)の購入については、主食となる米を中心に購入することとしました。

米については、これまで地域の農家からの提供により確保してきましたが、今年度は提供が非常に少なくなり、安定的に揃えるためには購入以外の手段を選択できない状況となっています。そのため、資金援助は欠かせないものとなっています。

テントについては、購入することで、レンタルに要していた時間や労力の削減につながっています。あわせて、今後はフードパントリーや、そこから派生する取り組みにおいても活用していく予定です。

# 生きづらさを抱えた子ども・若者・女性のためのアフターケア支援および更生保護支援

- ・ 特定非営利活動法人DV対策センター
- ・ 東都生活協同組合

<https://ameblo.jp/dv-taisaku/entry-12961582287.html>



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

DVや虐待は高い確率で連鎖し、子どもが虐待を経験するリスクを高める社会課題となっています。こうした連鎖を防ぐことが重要である一方、公的なサポートは十分とはいえません。当団体では、社会で役に立つ人として育成することを目的に、虐待を経験した子どもを対象とした居場所づくりや学習支援に取り組んでいます。

週5日、居場所を開設し、虐待の影響で不登校となっている子どもや、母親の就労により孤立しやすい子ども、ヤングケアラー状態にある子どもなどを対象に、居場所支援、学習支援、食事提供をおこなっています。特にエンパワメント講座では、暴力を容認する思考を見直し、自己肯定感や倫理観を高めることで、将来の自立や社会参加につながる支援をおこなっています。また、お弁当の配布を通じて孤食の防止にも寄与しています。あわせて、DV・虐待・貧困の影響により非行や犯罪に至った子ども・若者・女性を対象に、月1回、再発防止を目的とした更生講座もおこなっています。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
毎月開催	25年4月～26年3月 子ども居場所・学習支援 648名(8回～12回開催) エンパワメント講座&お弁当配布 395名(月2回開催) 再発防止セミナー&食品配布会開催 361名(月1回開催) トラウマケア講座&お弁当配布 122名(月1回～2回開催)	1,526名
2025年12月	フードドライブ1回目 (東都生協組合員からの食品寄付の受取・仕訳け・活動の広報) 131個の食品などを寄付いただきました。	131個
2026年3月	フードドライブ2回目 (東都生協組合員からの食品寄付の受取・仕訳け・活動の広報) 141個の食品などを寄付いただきました。	141個



## 他団体と協働することで発見したこと

2025年度、東都生協が当団体の活動について広報をおこない、その取り組みの一環としてフードドライブを実施し、12月と3月の2回の実施で、合計272個(12月:141個、3月:131個)の食品が集まりました。

集まった食品は東都生協から当団体へ配送し、支援している若者が仕分け作業を手伝いました。その様子を組合員の皆さまに報告・発信することで、当団体の活動や、若者を取り巻く課題について、より深く知っていただく機会を広げることができました。

本取り組みは、組合員の皆さまが困窮する世帯を支えたいという思いを育む機会となるとともに、社会貢献の場づくりや、地域で支え合う仕組みづくりにつながりました。

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

2025年度は、虐待を経験し心に傷を抱える若者の利用が増えました。特に、虐待を受けた末に非行や犯罪に至った子ども・若者への支援が増えたことは、大きな社会的意義があると捉えています。

子ども・若者の居場所支援を定期的におこなうとともに、倫理観の是正や自己肯定感の向上を目的としたエンパワメント講座を月2回以上開催し、毎回30名前後が参加しました。加えて、罪を犯した子ども・若者に対しては、月1回、更生講座を通じてルールを守る大切さやお金の正しい使い方などを学ぶ機会を設け、再犯防止に寄与しました。

また、お弁当の配布をおこなうことで、困窮状態にある母子や若者を支える役割も果たしました。

# 子育て応援プロジェクト

- ・岩手県学校生活協同組合
- ・岩手県教職員組合

## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

2025年度は、子育て中の教職員を対象に「子育て応援プロジェクト」として、子育て交流会、子育て交流試食会、子育て交流ランチ会をおこないました。

学校現場で働く教職員は、仕事と家庭の両立や復職への不安、子どもの成長に伴う悩みなどを抱えながらも、同じ立場で安心して話し合える機会が少ない現状があります。

そこで、教職員同士だからこそ共有できる悩みや本音を、安心して語り合える場を設け、孤立感の軽減や、子育てと仕事の両立を支え合うつながりづくりを目指しました。

交流に加え、CO・OP商品を使った調理体験や試食、権利や制度に関する情報提供を取り入れました。

また、ランチ会では、子連れでの来店を歓迎し、お子さまメニューのある地元の飲食店を会場とすることで、地域の子育てにやさしい環境や地産地消の魅力にふれる機会にもつながりました。こうした地域との接点も、教職員を支える活動の広がりを考えるうえで大切な要素だと感じています。

## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
7月	子育て交流ランチ会(北上市)	親子6組
	子育て交流ランチ会(奥州市)	親子2組
	子育て交流ランチ会(宮古市)	親子5組
8月	子育て交流ランチ会(盛岡市)	親子7組
	子育て交流ランチ会(奥州市)※2回目	親子2組
	子育て交流ランチ会(九戸村)	親子5組
9月	子育て交流ランチ会(北上市)※2回目	親子6組
10月	子育て交流会(託児付き・盛岡市)	5名参加
	子育て交流試食会(北上市)	親子5組
11月	子育て交流試食会(矢巾町)	親子3組



## 他団体と協働することで発見したこと

岩手県教職員組合、岩手県高等学校教職員組合、盛岡医療生協と関わりながら活動をすすめるなかで、子育て中の教職員を支えるためには、交流の場に加え、権利・制度に関する情報や健康・暮らしの視点など、多様な支えが必要であることを改めて実感しました。

また、教職員という共通の背景があるからこそ、子育てや仕事との両立に関する悩みや本音を安心して語り合えることも感じました。地域に広く開かれた支え合いとは別に、同じ境遇の人をつなげられることは、職域生協ならではの大切な役割だと感じています。

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

これまで継続してきた子育て交流会、子育て交流試食会、子育て交流ランチ会について、助成金を活用することで、各企画を継続的に実施するとともに、参加者のニーズにより応えられる内容へと充実させることができました。

離乳食の試食やCO・OP商品の試食・調理実習、地域の子育てにやさしい店舗でのランチなど、交流に加えて、くらしや子育てに役立つ体験の機会を広げることができました。

また、岩手県教職員組合、岩手県高等学校教職員組合による権利や制度の説明に加え、盛岡医療生協との新たなつながりも生まれ、参加者が「ひとりではない」と感じられる、交流にとどまらない支え合いの広がりにつながりました。

# 体験農園や収穫体験の活動をとおして、 消費者が農業を学び、農業の担い手 育成につなげる活動

- ・わかやま市民生活協同組合
- ・紀ノ川農業協同組合

<https://www.wakayama.coop/news/2146/index.shtml>



## 活動内容(概要・背景・実現したいこと)

日本の農業は、農家や後継者の減少により、耕作放棄地（遊休農地）が増加しています。

こうした状況を受け、地元の農協が農地を確保し、生協が組合員から農業ボランティアを募り、農地を再生して作物を育てる取り組みをおこないました。

この取り組みは、農業や食について学ぶ機会を提供するとともに、農業関係人口の拡大を目的として開催したものです。

その結果、とうもろこし・ブロッコリーの体験農園には、のべ234家族・494人が参加しました。

参加者からは、「野菜が作られる過程を子どもに知ってほしい」「小さな農園を借りているので、さまざまなことを学びたい」といった声が寄せられました。

本活動を通じて、産地との交流を一步すすめた取り組みを実現することができました。



## 月別活動実績

月	活動・イベント名称	実績
4月	上旬～中旬 とうもろこし 播種(種蒔き)作業 6回	122名
4～5月	4月中旬～5月上旬 とうもろこし 定植作業 4回	97名
6～7月	6月下旬～7月上旬 とうもろこし収穫作業 11回	101名
8月	8月下旬 ブロッコリー 播種(種蒔き)作業 4回	59名
9月	ブロッコリー 定植作業 4回	57名
1～2月	1月下旬～2月 ブロッコリー収穫作業と店舗出荷作業	58名



## 他団体と協働することで発見したこと

生協だけでは、このような耕作放棄地を活用した農業体験を実施することはできませんでした。また、農協においても、耕作放棄地を再生して作物を栽培するには、人件費が大きな課題となっていました。

そこで、「農縁隊（援農ボランティア）」という仕組みを取り入れることで、これらの課題を乗り越え、活動を実現しました。参加した組合員からは、それぞれの想いを形にすることができたとの声が寄せられています。

今後も、本活動をさらに発展させていきたいと考えています。

## 活動の成果と助成金により実現できたこと

助成金は、主に圃場の管理委託費および材料費（種子、培養土、肥料、農薬など）に使用しました。これにより、農縁隊（農業ボランティア）が作物を育て、収穫を体験する機会をつくることができ、農業や食料の大切さを学ぶ場となりました。

参加した組合員からは、「来年も参加したい」「ブロッコリーが苦手だった子どもが、自分で収穫したブロッコリーはおいしいと言って食べてくれた」など、学びや意識の変化が生まれたとの声が寄せられています。



CO・OP共済 地域ささえあい助成では、活動内容の理解と事務局の学びの機会として、現地視察を実施しており、「わかやま市民生活協同組合」、「紀ノ川農業協同組合」が協働している活動を視察しました。

### 内 容

#### ◎ 現地視察先

『紀ノ川の農園および活動拠点の視察』  
『わかやま市民生協にて活動報告・懇談』

#### ◎ 地域の状況と活動の背景

和歌山県での基幹的農業従事者（耕作面積など基準に準じる者）は、2025年時点、2020年比で約16%減少し、65歳以上が全体の65%を占めるなど高齢化がすすんでいます。さらに、遊休農地や空き家の増加が顕著で、空き家率は全国1位となっています。これらの状況から、集落の衰退や食料生産・確保に関する課題が明らかになりました。この課題に対応するための活動として生協と農協が協働した「体験農園や収穫体験を通じて消費者が農業を学び、担い手育成につなげる活動」を開始しました。

#### ◎ 活動の現状と課題

活動開始から3年目を迎え、農地の拡大やトイレ・シャワーなどを設置し、体験農園の受け入れ環境は整備がすすんでいます。わかやま市民生協の広報活動の効果もあり、遠方からの参加者も増加しています。一方で、雨天による中止や病害により作物が全滅するなど、天候・自然条件に起因する課題も発生しました。再度の定植や消毒作業をおこない、対応を継続しています。



(付番されている所が現在活動している場所。7627㎡、作付面積は6150㎡)



#### ◎ 次のステップ

これまでの経験から、農業体験だけでは地域課題の解決に十分でないと判断され、地域事業者5社と連携して「紀ノ川流域カンパニー」を設立しました。同社では、農業体験に加え、人材育成、収穫物を活用した料理体験、栽培技術の習得などをおこなえる宿泊施設を整備中です。これは空き家対策の一環でもあり、地域資源を活用した持続可能なまちづくりを目指しています。

2025年は国連が提唱した「国際協同組合年」でした。「消費者」を組合員とする生協と、「農業従事者」を組合員とした農協が、過疎や農業の問題を解決するため協力した取り組みとして、協同組合のつながりが発揮されていることが印象的でした。

## フレンドリーサポートとは

助成金活用団体に対してアンケートや双方向のヒアリングを通じ、活動状況や助成金の活用状況を伺う取り組みです。助成する・されるという一方的な関係ではなく、互いに学びあう機会として実施しています。事務局も助成金活用団体の皆様から学ばせていただきながら、より良い制度づくりを目指しています。

## フレンドリーサポートの実施概要

2025年度の31の活動に対し、27の活動にオンラインでおこないました。また、3つの活動には現地視察（P11.12.25.48参照）、1つの活動には学習交流会にて活動報告（P50参照）をしていただきました。

## 意見交換のテーマ

次の3点について意見交換をおこないました。

- 1 活動の状況および助成金の活用状況
- 2 協働・連携の状況
- 3 当該年度または次年度以降の展望

## フレンドリーサポートによって得られるものと活用方法

各活動の実施状況について、生協と地域が協働して取り組んでいる活動の様子や課題への対応状況等をお伺いします。応募用紙だけでは把握しきれない活動の詳細について、事務局としての理解を深めることができます。あわせて、助成金が活動の中でどのように活用されているのかを確認する場にもなっています。さらに、将来の展望をお聞きすることで、地域との関係性や、団体が目指している方向性への理解を深めています。

活動団体の皆様には、事務局との対話を通じて自分たちの活動を振り返り、整理する機会として活用いただいています。また、団体と事務局がオンラインで顔を合わせてお話しすることで、メール等では表に出にくい悩みや課題を共有いただき、解決の糸口を一緒に探る場にもなっています。フレンドリーサポートの結果は、審査委員にも共有し、次年度の審査においても、活動内容の理解を深めたくうえで審査をすることができます。

## 参加者の感想（抜粋）

- 「地域ささえあい助成」はシンプルに、「誰もが安心してらせる地域社会のために『生協』と『生協以外の団体』が共に取り組む活動を支援する」とされていますが、実際の活動や協働のありようはとて多様で、フレンドリーサポートでお話を伺うと応募申請書を読むだけではわからない活動の難しさや素晴らしさが伝わってきます。お忙しい中、話を聞かせていただいた団体・生協の皆様にお礼を申し上げます。（審査委員）
- 協力団体と普段からやり取りはしていますが、報告という形式でお話することで、到達点の確認と今後のすすめ方について目線合わせができてよい機会になりました。（生協担当者）
- 活動の一端を視覚的（報告書レポートや画像など）かつ現場の言葉で共有でき、非常に有意義な時間となりました。また改めて成果（数字など）をわかりやすい指標で伝え、報告する必要性も認識できました。（団体担当者）
- フレンドリーサポートでは、事務局の皆様が普段の活動を知っていたく貴重な機会となりました。ご助言やアドバイスをいただくことができ、私たちとしても今後の活動をどのようにすすめていくかを考えるよい機会になりました。また、助成金の使い方についての相談をする機会にもなりました。（団体担当者）
- 事務局の方と顔を合わせて話すことができ、活動の幅を広げるための協働の視点・助成金の活用方法を学ぶことができました。今後は、多胎家庭支援に加え、過疎化のすすむ沖縄県北部地域で子育てするママたちの現状にも視点を向け、継続した支援をおこなっていきます。（団体担当者）

地域ささえあい助成では、助成金活用団体の皆様との「学びあいと交流の場の提供」を目的として毎年、「団体交流会」を開催しております。

2025年度は「学びの機会を広げたい」という想いから、基調講演/活動報告/パネルディスカッションを一般の方々にも公開しました。「市民活動のためのお金のイロハ」をテーマに、社会課題解決の活動で直面するお金の問題について交流しながら考える機会として、「学習交流会」を開催いたしました。

## 開催日時

2025年10月24日（金） 13:00～16:30 オンライン開催

## 参加状況

助成金活用生協・団体…27生協18団体 62名、一般参加…24名、その他23名 合計109名

## 開催内容

- 1 開会挨拶 日本生活協同組合連合会 組織推進本部 本部長 近藤 麻子
- 2 基調講演
  - i. 講師：山口 郁子 氏（一般社団法人）全国労働金庫協会 政策調査部 事業創造ディレクター
  - ii. 講演テーマ：「市民活動のお金のイロハ～知っておきたい基礎知識～」

【山口 郁子 氏】



【大木 理之 氏】



【Zoom参加者の皆様】



- 3 活動報告 大木 理之 氏（特定非営利活動法人フードバンクしまねあったか元気便 事務局長）
- 4 パネルディスカッション：（司会 日本生活協同組合連合会 事務局 前田 昌宏）  
山口 郁子 氏、大木 理之 氏、大野 覚 氏  
（審査委員／認定NPO法人茨城NPOセンター・コモンズ常務理事・事務局長／フードバンク茨城理事長）
- 5 分散会交流+全体交流  
少人数のグループに分かれ、次のテーマで分散会交流をおこないました。
  - i. 基調講演、活動報告を受けての感想、取り入れてみたいこと
  - ii. 活動していて困っていること、同じグループの人に聞いてみたいこと
- 6 閉会挨拶 日本コープ共済生活協同組合連合会 常務執行役員 前田 かおり

### ●参加者の声

- ・ 山口さんのお話は、非常にわかりやすく、活動の資金集めについて、整理できました。
- ・ 大きな課題に立ち向かうなら、1つの組織だけではなく、いろんな組織・団体がつながることで、解決できるかもしれない。その可能性を感じられました。実際に助成団体の方からお話が聞けたのもよかったです。
- ・ 生協の役割分担について参考にさせていただきます。広報の大事さをしまね大木さんより学ばせていただきました。支援団体さんの活動を組合員さんに知ってもらうための学習会などで支援者（ボランティア体験）を増やせないかと考えています。
- ・ 地域との関係づくりをしていきたいと思いました。企業、ボランティア、他団体など。
- ・ コープこうべさんの多様な取り組みが印象的でした。生協が地域のためにできることはまだまだあるのだと勇気をもらいました。
- ・ 社協さんから、生協の「自由度の高い動き」「自由な発想」は地域社協を必ずよくする。あらゆるエリアで社協・生協がつながっていければ...と、ありがたいお言葉をいただきました。良かったです。
- ・ 他生協の話聞くことがあまりないため、共同購入事業以外の取り組みについて知れたことで生協の存在、活動意義について再確認できました。

# 「生協のくらしの困りごとヒント集」のご案内



『生協のくらしの困りごとヒント集 介護編』を発行しました！

「介護」に関する困りごとのヒントを、「組合員の声」をもとにわかりやすくまとめています。介護にお困りの方や介護が気になっている方など、みなさんのくらしのヒント集として、また、学習会等の参考資料として、ぜひご活用ください。

## 「生協のくらしの困りごとヒント集」とは



CO・OP共済は、組合員へのより一層のお役立ちをめざし、「生協のくらしの困りごとヒント集」の発行を開始しました。

このシリーズでは、毎号1テーマずつ、くらしのなかの様々な困りごとの解決に向けたヒントをQ&A形式でお伝えしていきます。

各号には、アンケートで集められた全国の生協組合員の困りごとやアドバイスにもとづくQ&Aを20～30件掲載していきます。

詳しくは  
コチラ



CO・OP共済オフィシャルホームページからダウンロードしてご覧いただけます！

## 2025年3月発行の「介護編」について

第1号  
テーマ

介護

### 内容

- 介護について、どんなタイミングでどこに相談したらいいのか、介護が始まる前から備えておけること（第1章）
- 介護サービスはどうやったら受けられて、どんなサービスをどのくらいの費用で受けられるのか（第2章・第4章）
- 介護する方も介護を受ける方も悩みがちな、介護をめぐるさまざまなコミュニケーションについて（第3章）

### 特長

- ①ご家族等の介護を経験された組合員からのアドバイスが特に好評です！
- ②制度の知識だけでなく、介護をめぐるコミュニケーションのヒントも載っています！
- ③ご家族等を「介護する」方の視点だけでなく、「介護を受ける」方の視点も意識しました！
- ④冒頭にご自身の状況の「ふりかえりシート」、末尾に「アンケート結果」を付けています！

### 読者（組合員）の声

全体を通して「一人でがんばりすぎなくていい」「人を頼っていい」というメッセージが感じられました。特に、組合員からのアドバイスがよかった！知識は調べると出てきますが、生身のアドバイスはホッとします。



3 まずどこに相談したらいい? 窓口を教えてください

急に介護が必要になったとき、どうしたらいいか、どこに相談したらいいのかわかりません。すぐに対応してもらえますでしょうか。(79頁)

地域包括支援センターや市区町村の福祉課等の窓口へ相談してください。介護サービスの利用には要介護認定の手続き(→12)が必要となるため、まずはこの案内を要することになります。

社会福祉協議会  
公的機関以外では、各市区町村の社会福祉協議会でも相談を受け付けています。地域の特性を踏まえた独自の事業を含め、高齢者のくらしを支えるサービスを行っています。

かかりつけ医や民生委員  
かかりつけ医や民生委員が身近にいる場合、まずはこちらに相談してもかまいません。介護に関する相談を受けたかかりつけ医や民生委員は、必要に応じて地域包括支援センターへつなぐ役割も担っています。

退院後の介護は入院中の医療機関とも相談を  
退院後に介護サービスの利用が必要な場合、退院前から要介護認定の手続き(→12)が必要です。他の病種・施設へ転院するのか、退院して介護を受けるのか(→13)、入院中の医療機関とも相談することになります。

組合員からのアドバイス!  
まずはすぐに行政窓口へ相談し、ケアマネジャー(→13)につなげてもらうことが大事。ひとりではあれご自身のお力は限界がもたないのです。お悩みのことでもどしどし相談し、小さな悩みを解消しましょう。(10頁)

介護・福祉に  
取り組む生協もあります  
全国の生協の中には、介護・福祉の事業に取り組んでいるところもあります。ご加入の生協やお近くの生協のホームページを確認してみてください。

地域包括支援センター  
全市区町村に設置された機関です。介護サービスに関する相談をはじめ、地域の高齢者の総合的な相談に、専門家等のチームで対応しています。全国に5,000の所以上あり、お近くのセンターは厚生労働省「介護サービス情報公表システム」から探せます。また、市区町村の福祉課等でも案内しています。なお、名称は市区町村によって異なることがあります(「あんしんすこやかセンター」等)。

市区町村の福祉課等  
市区町村の福祉課等の窓口でも介護に関する相談に対応しています。介護保険制度は、国や都道府県の支拂のもと、市区町村が運営しています。地域包括支援センターも市区町村の福祉課等も相談は無料です。ちょっとしたことでも気軽に相談することができます。



みんなの困りごとのヒントにしてほしいのだ!



## 🐻 介護だけでなく例えば健康づくりについても

「介護編」では、いつまでも健康でいつづけ、毎日を前向きに過ごせるよう、「介護」だけでなく「健康づくり」に関するヒントも載せています。

そのなかで、健康づくりの3つのポイント「食生活(栄養)」「運動」「社会参加(つながり)」の大切さなどをお伝えしています。

なお、この「介護編」は全国コープ福祉事業連帯機構の監修のもと作成しており、同団体や日本生協連が推進する「生協10の基本ケア®」の考え方も参照しています。



## 🐻 2026年夏頃に「老後のお金とくらし編」を発行予定

次号では、「健康」「介護」と並ぶ老後の不安である「お金」の困りごとや、お金だけでは解決しがたい老後のくらしの困りごとを取り上げる予定です。

「老後のお金とくらし編」の作成に向け、組合員アンケートを実施し、約5,000名からご回答いただきました。

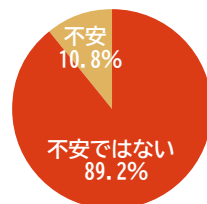
その結果、全体の約9割が老後のお金に不安を感じていることや、不安は特に子育て世代で強いことがわかりました。

一方で、全体の約6割が老後のお金に備えられずにいます。

このような状況に対しても、次号でお役立ちをめざしていきます!

老後のお金とくらし  
第2号  
テーマ

Q. ご自身の老後資金・生活資金に不安を感じますか?



詳しくは  
コチラ



アンケート結果については、プレスリリースでもまとめています。

## CO・OP共済 地域ささえあい助成 2025年度 活動報告集

発行日：2026年6月

発行元：日本コープ共済生活協同組合連合会

総合マネジメント本部 組合員参加推進部

組合員参加・社会貢献活動グループ

地域ささえあい助成事務局

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-1-13

電話 03-6836-1324

メール [contribution@coopkyosai.coop](mailto:contribution@coopkyosai.coop)

CO・OP共済オフィシャルホームページ

<https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/>



CO・OP共済

SNS公式アカウント



facebook フェイスブック



Instagram インスタグラム

X エックス



LINE ライン

YouTube ユーチューブ



ミックス  
紙 | 責任ある森林  
管理を支えています  
FSC® C016129



UD  
FONT

見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。